

平成24年度

北九州市学力向上ステップアップ事業（第Ⅱ期）

推進指定校実践交流会

【研究主題】

確かな学力の定着に向けた組織的取組の試み

～八枝スタンダードの作成を通して～

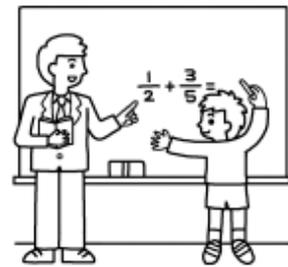


期 日 平成24年10月 4日（木曜日）

会 場 北九州市立八枝小学校

# 目 次

○ 日程及び内容	1
○ 会場案内図	2
○ 研究の概要	3
● 学校教育目標	
● 研究主題	
● 研究主題設定の理由	
● 主題のとらえ	
● 研究組織図	
● 研究計画	
● プロジェクト班等の活動内容	
● 学習規律班	
● 授業づくり班	
● 環境整備班	
● 学力向上委員会	
● その他学力向上に向けた取組	
● 研究経過	
● 成果と課題	
○ 別紙資料（1～5）	15
○ 公開授業学習指導案	23
● 国語科学習指導案	第1学年2組
● 算数科学習指導案	第2学年2組
● 社会科学習指導案	第3学年1組
● 算数科学習指導案	第4学年3組
● 国語科学習指導案	第5学年1組
● 社会科学習指導案	第6学年2組
○ 実践交流	52
○ 研究同人	53



# 日程及び内容

## 1. 時 程

13:45 14:15                      15:00    15:20 15:30                      16:20                      16:50 17:00

受付	公開授業	移動 伝統クラブ 児童による演奏	全 体 会			
			開会 行事	研究構想 成果と課題発表 実践交流	指導講評	閉会 行事

## 2. 公開授業 14:15~15:00

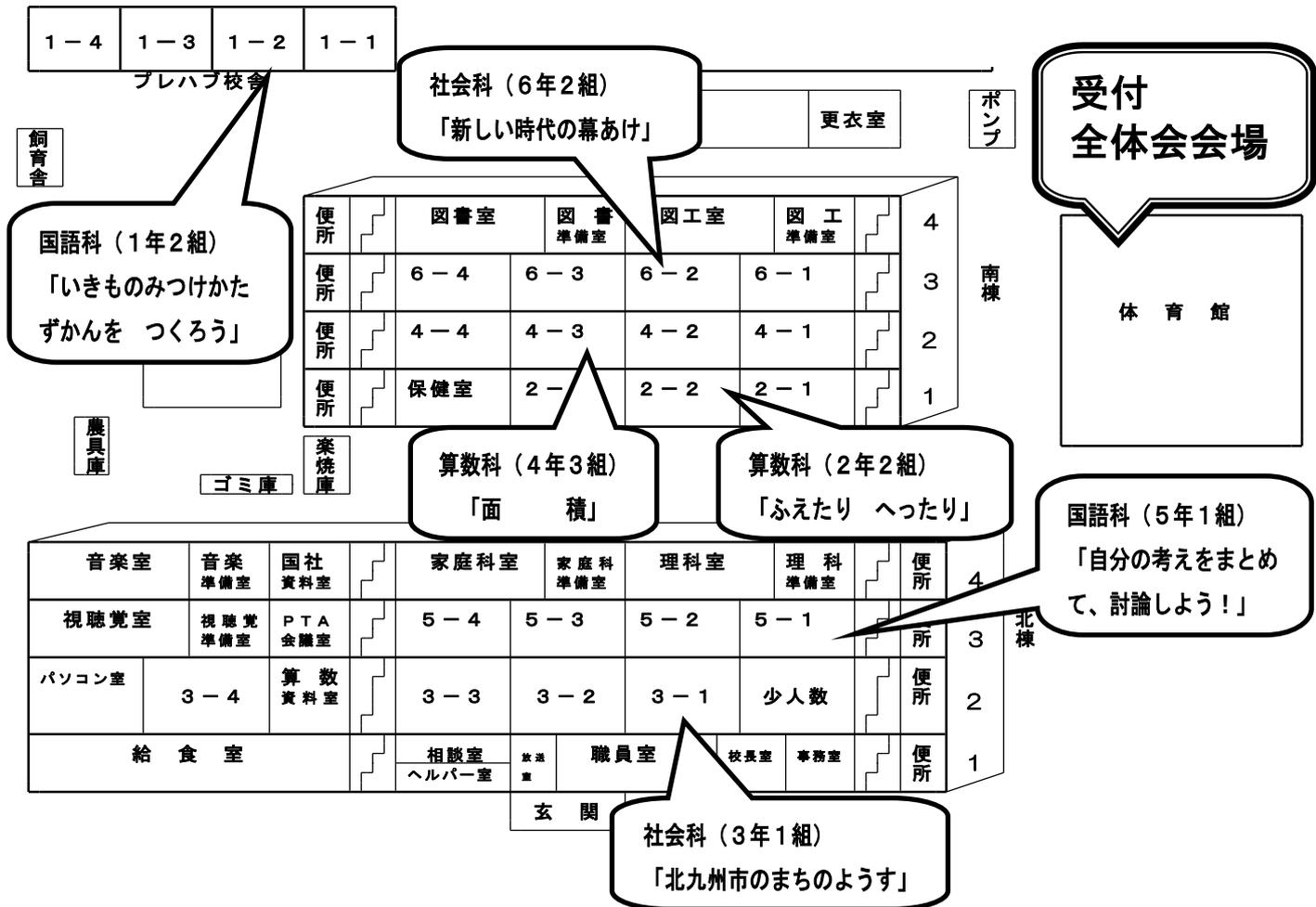
教 科	学 年	単 元 名 等	授 業 者
国語科	1年2組	「いきものみつけかたずかんをつくろう」	中村 真理
算数科	2年2組	「ふえたり へったり」	深江 昭洋
社会科	3年1組	「北九州市のまちのようす」	濱田 明美
算数科	4年3組	「面 積」	青野 聖子
国語科	5年1組	「自分の考えをまとめて、討論しよう！」	倉富 尚
社会科	6年2組	「新しい時代の幕あけ」	古田 和弘

## 3. 伝統クラブ児童による演奏

## 4. 全体会 15:20~17:00

- (1) 開会行事 教育委員会挨拶 及び 来賓紹介
- (2) 研究構想・成果と課題発表
- (3) 実践交流（各班に分かれての意見交流）【学習規律班】【授業づくり班】【環境整備班】
- (4) 指導講評 北九州市教育委員会 指導主事
- (5) 閉会行事 学校長挨拶

# 【 会場案内図 】



◎ 受付・全体会会場 体育館

- 1年2組 国語科授業 プレハブ棟
- 2年2組 算数科授業 南棟1階
- 3年1組 社会科授業 北棟2階
- 4年3組 算数科授業 南棟2階
- 5年1組 国語科授業 北棟3階
- 6年2組 社会科授業 南棟3階

# 研究の概要

# 北九州市立八枝小学校

## 平成24年度 学力向上ステップアップ事業（第Ⅱ期）2年次の取組

### 1 学校教育目標

**「思いやりの心もち、自ら学び考える、心身ともに健康な児童の育成」**

徳育・知育・体育のバランスの重視

### 2 研究主題

**確かな学力の定着に向けた組織的取組の試み**

**～八枝スタンダードの作成を通して～**

### 3 研究主題設定の理由

#### （1）社会の要請から

改正教育基本法や学校教育法の一部改正を受け改定された小学校学習指導要領が、平成23年度より全面実施となった。新学習指導要領では、教育の基本理念「生きる力」が引き継がれるとともに、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和がこれまで以上に重視されることになった。

北九州市では、その内容を受けて策定した「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に基づき、全市的な目標として「一人一人に『生きる力』をはぐくむ学校教育の創造」を掲げ、「心の育ちの推進」「確かな学力の向上」「健やかな体の育成」の三つの柱を中心に、本市の教育プランの施策を具体的に推進している。

特に三つの柱のうち、「確かな学力の向上」については、「北九州スタンダード すべての教師のための授業改善ハンドブック」（平成22年3月）や「北九州市学びチャレンジプログラム 活用する力を高めるワーク」（平成22年4月）、「北九州スタンダードカリキュラム」（平成23年3月）を作成するなどして、児童の学力の定着・向上に努めている。

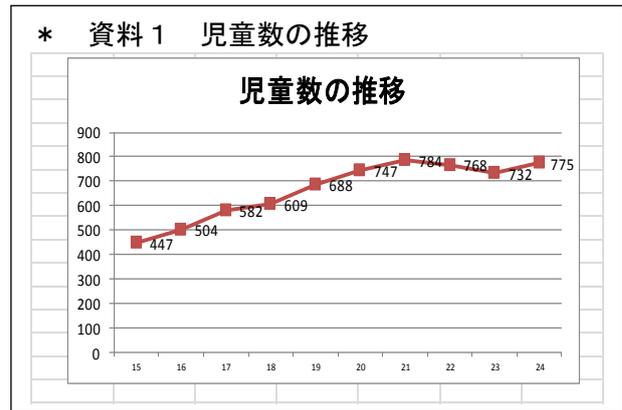
そこで本校では、平成23年度から3年間「北九州市学力向上ステップアップ事業 第Ⅱ期推進指定校」の委嘱を受け、本市教育の重要課題の一つである児童の学力の定着・向上を目指すことにした。

具体的には、主題を「確かな学力の定着に向けた組織的取組の試み～八枝スタンダードの作成を通して～」と設定し、学習規律、学習指導方法（学び方）等についての八枝スタンダードを作成し、組織的に実践することを通して、児童の学力の定着を図る研究に取り組むこととした。

## (2) 本校の実態から

本校は、過去10年間における急激な児童数・学級増加(\* 資料1)により、学校全体が落ち着かない状況にあった。

そのような中、学級運営や学習指導方法等が担任にまかされる傾向にあり、学校全体としての共通理解や指導の徹底が図られていない現状があった。また、平成22年度より3年連続で新採教諭(6名)の配置があり、若年の講師も多いことから、学校全体としての教師の指導力の育成が喫緊の課題となっている。



研究面では、6年間の国語科の学習指導法の研究を通して、一定の成果が見られている。しかし、平成22年度のCRTの結果の経年比較によると、学力が停滞もしくは学年や教科によっては下降傾向が見られた。そこで、一つの教科の指導方法の研究に一区切りをつけ、新たな視点から学力の定着・向上を試みる時期にあると考えた。

以上のことを踏まえ、学習規律、学習指導方法等についての八枝スタンダードを作成し、組織的に実践することを通して、児童の学力の定着を図る研究を推進することとした。

## (3) 学校教育目標の具現化から

本校の学校教育目標は、「思いやりの心を持ち、自ら学び考える、心身ともに健康な児童の育成」である。徳育・知育・体育のバランスを重視した教育目標を設定している。

この学校教育目標の柱の一つである、自ら学び考える児童を育成するためには、まずはその前提として基礎的・基本的な内容の確実な定着、すなわち確かな学力の定着が必要不可欠であると考えます。このことから、平成23年度より研究主題を「確かな学力の定着に向けた組織的取組の試み」とした。

## 4 主題のとらえ

北九州市教育委員会が発行している「平成24年度 北九州スタンダード 指導の重点」では、確かな学力の向上について次のように説明している。

「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方のバランスのとれた指導を重視する。また、体験的な学習や問題解決的な学習を重視するとともに、思考力・判断力・表現力等の基盤となる「言葉の力」を高め、言語活動を充実させる。このような学習活動を通して、学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を総合的に育成する。さらに家庭との連携により、望ましい生活習慣、言葉の基礎力等を身に付けさせるなど児童生徒の「学びの基盤づくり」の充実を図る。

このことを踏まえ、本校の実態から、「確かな学力」を次のように定義付ける。

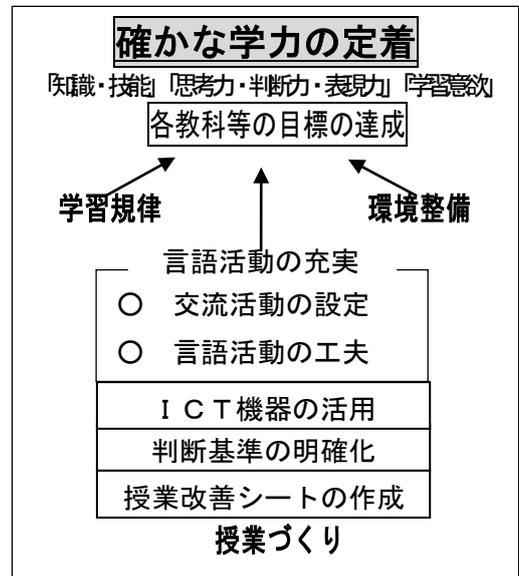
**教科等における「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学習意欲」を  
バランスよく身に付けた力。**

児童に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学習意欲」をバランスよく身に付けさせるためには、ある特定教科における学習指導法の工夫を行うといった一面的な取組ではなく、多面的な取組が必要であると考えます。

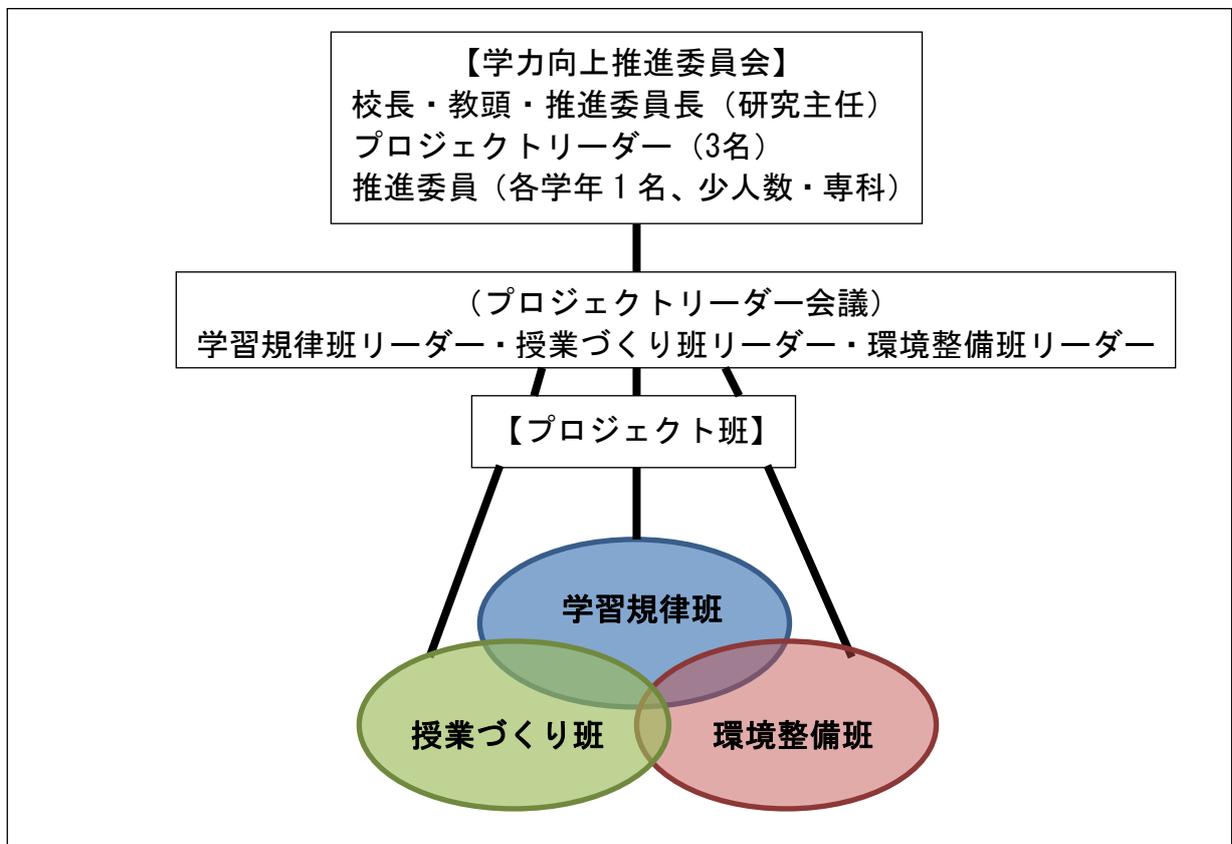
このことから本校では、「学習規律の徹底」「授業づくりの工夫」「学習環境の整備」の3方向から「確かな学力」の定着に迫ることとする。

また、学校全体としての共通理解や指導の徹底が大切だと考え、全職員をそれら3方向のプロジェクトチーム（学習規律班・授業づくり班・環境整備班）に配置し、確かな学力の定着に向けた具体的な方策を各プロジェクトチームで企画・提案し、それを「八枝スタンダード」として

まとめて学校全体で実践するという、組織的取組を行うこととした。



## 5 研究組織図



## 6 研究計画

### ○ 3年間の研究の流れ

#### <1年次（平成23年度）>

八枝スタンダードの試作及び実践、学力向上実践交流会の開催

※ 学力向上実践交流会の授業公開・・・低・中・高学年から1名ずつ  
（新採教諭、全員研修会授業者、6・10年次教諭等を除く）

※ 授業づくり研究対象教科・・・国語科・算数科を中心として

#### <2年次（平成24年度）>

八枝スタンダードの修正及び実践、学力向上実践交流会の開催

※ 学力向上実践交流会の授業公開・・・各学年から1名ずつ  
（新採教諭、全員研修会授業者、6・10年次教諭等を除く）

※ 授業づくり研究対象教科・・・国語科・算数科を中心として教科を拡充の方  
向で

#### <3年次（平成25年度）>

八枝スタンダードの完成及び実践事例集の作成、学力向上推進実践報告会の開催

※ 学力向上推進実践報告会の授業公開・・・全学級公開  
（新採教諭、全員研修会授業者、6・10年次教諭等を除く）

※ 授業づくり研究教科・・・国語科・算数科を中心として全教科を対象として

## 7 プロジェクト班等の活動内容

### (1) 学習規律班

### 資料2 十か条

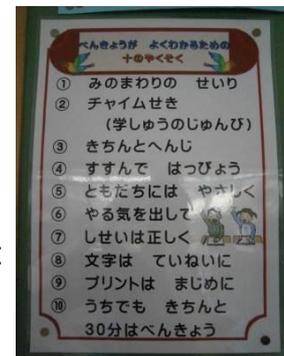
#### ① 八枝スタンダード（学習規律編）の項目・内容の修正

昨年度作成した質問紙の項目をもとにスタンダードの項目を選定し、「勉強がよくわかるための十か条」（別紙1）として、各学級に掲示した。（\* 資料2）

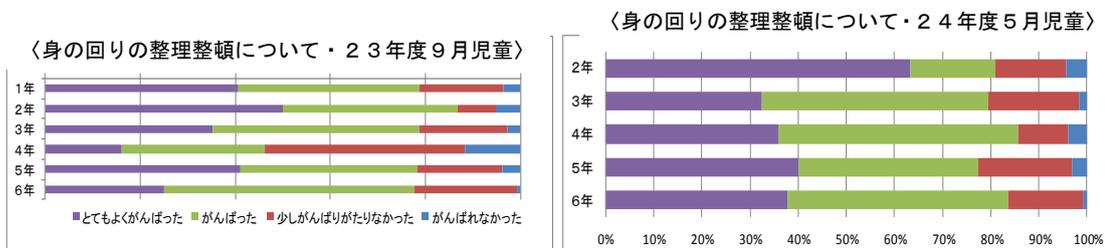
#### ② 児童アンケート、職員アンケートの継続実施

昨年度作成した質問用紙（教員用：\*別紙2、 児童用：\*別紙3）に修正を加えることなくそのまま使用し、アンケートを実施した。（5月実施）

#### ③ 昨年度（23年9月）と今年度（24年5月）の教員用、児童用のアンケート結果から見た課題のうち特徴的なものを、以下のようにまとめた。

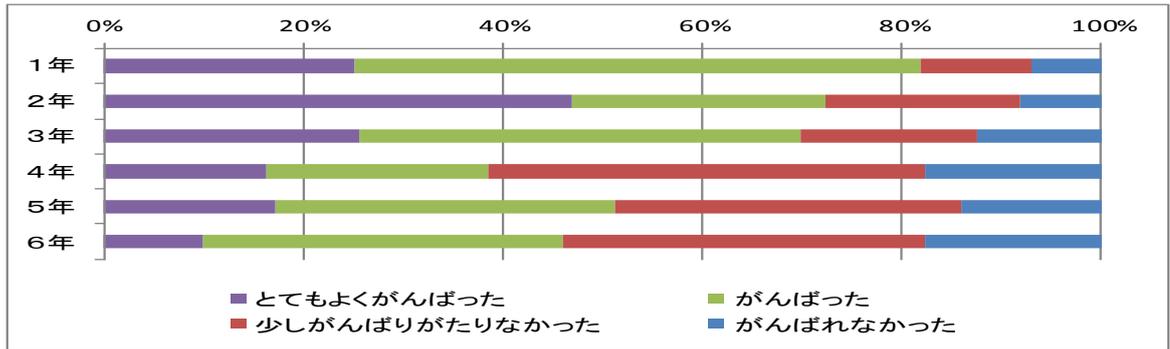


### <アンケート結果より>

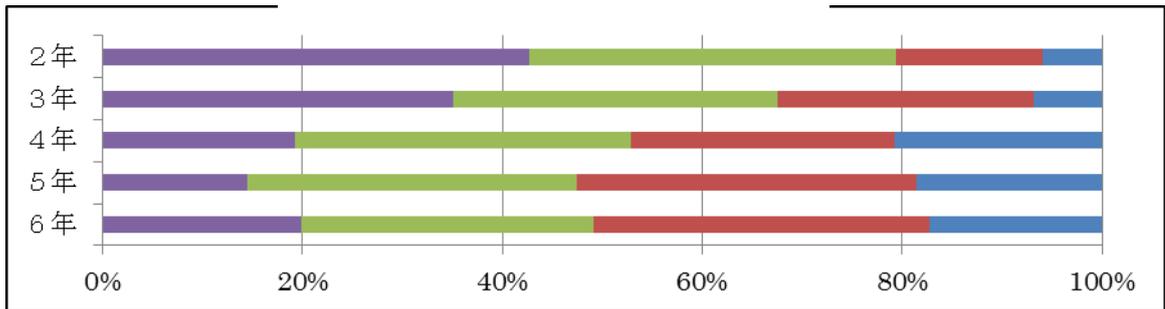


- 児童のアンケート結果から、身の回りの整理整頓については、教師の声掛けの効果がどの学年ともに表れていて、ポイントが増加している。特に現2年生及び現5年生の「とてもよくがんばった」のポイント増加が顕著である。

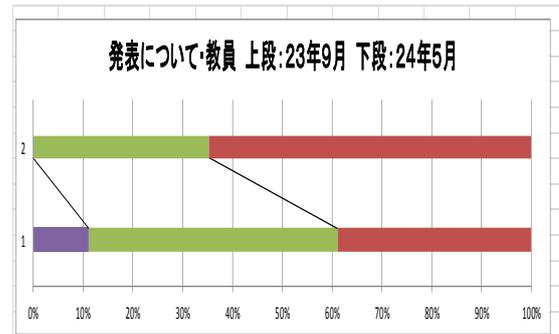
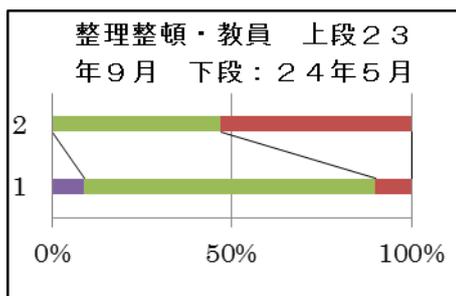
〈発表について・23年度9月児童〉



〈発表について・24年度5月児童〉



- 児童のアンケート結果から、発表については昨年度と現状維持の学年が多い。「発表のがんばりがたりなかった」と回答している児童も高学年を中心に多い。これらから、発表に課題があることが分かる。「発表の仕方」の例の掲示や、「はじめに～次に～最後に」等の論理的な話し方や「もし～が～ならば、」等の仮定する話し方などの指導を今年度も丁寧に行い、児童に発表の自信をつけさせることが大切であると考えます。



- 教員へのアンケート結果を見ると、身の回りの整理整頓が児童に定着してきたことについて、昨年と比べ向上したと考えている教員が多い。児童の回答と合わせて考えると、児童が整った環境の中で、落ち着いて学習に取り組んでいるといえる。  
また、発表については、向上はしているものの、まだまだ不十分と考えている教員が多い。児童に自ら考えさせ発表する中で、しっかりと発表に関する基礎・基本を身に付けさせるテクニックの修得と、じっくりと児童に考えさせて考えをしっかりとまとめさせる場面をきちんと確保する必要があると考えます。

- ④ 学習規律班では、アンケートの結果や日常の実態を踏まえ、児童の学習規律について以下のようにまとめ、研修会での提案を通して共通理解を図った。

**〈共通理解を図った内容〉**

**〈姿勢〉**

- ・ 帰りの挨拶と移動の時：「椅子を入れて立つ」  
発表の時：「椅子を入れない」
- ・ 「聞くとき」の姿勢：手は後ろ、椅子の内側（授業の始めに確認）

**〈号令、発表〉**

- ・ 手順
  - ① 姿勢→手を後ろ、先生の目を見る。
  - ② 「今から○時間目のお勉強を始めます。」  
「これで（学習を）終わります。」
  - ③ 「はい。」
  - ④ 「気を付け、礼。」「始めます。」  
「終わります。」  
先生の指示で次の行動。
- ・ 児童「さようなら。」の後、先生の指示で次の行動。  
日直～さん、自分のことはあとにしてください。
- ・ 発表回数は特に決めない。「はい」：1回
- ・ 挙手：5、6年は左手で挙手。右手で字を書く。
- ・ 発表の仕方：名前を呼ばれたら、「はい。」
- ・ 「挙手→返事→自分の考えを述べる」  
場合によって、「発表します。」「どうですか。」を付け加える。
- ・ 「友達の意見がとてもいいな。」と思ったときに拍手。

**〈学習全般〉**

- ・ ノート指導：日付、曜日、ページ、めあて、まとめ
- ・ 教科書や文房具の配置：少なくとも学年で統一
- ・ 自習時間：「ひとりで」「立たずに」「しゃべらずに」
- ・ 家庭学習：基礎基本の習熟 低30分、中45分、高60分

- ⑤ 学級掲示物や廊下掲示物等の作成（\* 資料3）  
学習規律について共通理解を図った内容について、  
学年や学級の実態に合わせた掲示物を作成し、学習  
規律の定着に努めた。

\* 資料3 「きょうかしよ、ノート、ふてばこの置き方」（低学年用）

\* 資料3 校歌・声のものさし・発表の仕方が貼られた教室

- \* 資料3  
6年生社会科に  
関する掲示物



## (2) 授業づくり班

- ① 八枝スタンダード（授業づくり編）の項目・内容の修正
- ② 学習指導案雛形の修正（＊ 別紙4）

学力向上のための視点（4点）を盛り込んだ学習指導案のモデルを作成した。

- 言語活動の充実を図る。（＊ 別紙4）
  - ・言語活動の工夫（他教科・他単元との関連を図る）
  - ・交流活動の設定
- ※ 本校が行ったアンケートの結果から、発表に関する状況に課題があることが伺えた。また、教師と児童の1問1答のような授業が展開されていることも少なくなかった。学力の伸びが感じられない状況でもあり、学力調査のB問題で不十分さを感じていた。そこで、他教科・他単元との関連を図りながらの言語活動の工夫に視点をあて、全学年、全教科、どの単元でも、授業の中で学力を高める手立てとして、友達との交流活動を設定することが大切と考えた。
- ICT機器の活用を図る。（＊ 資料4）
- 判断基準を明確に示す。（＊ 別紙4）

評価規準（B）を基にして、Aとなる判断基準を明確にするとともにBに達していない児童への具体的な手だてを示し、きめ細やかな指導と評価の一体化に努める。
- 授業改善シートの活用を図る。（＊ 別紙5）

＊資料4 実物投影機を活用した音楽科の授業



### ③ 学習指導案の検討

公開授業する学習指導案について、学年を中心に内容の検討を行った。特に、学力向上のための視点について確認した。

また、各教科指導主事に来校していただき、指導・助言を受けた。さらには、模擬授業を行い指導・助言を受けた。（＊ 資料5）



＊資料5  
指導案検討



＊資料5  
模擬授業

### ④ CRT 結果から、顕著な向上が見られた5年生による授業公開

昨年度、昨年4年生を担当していた教員（昨年度算数科授業を公開）による授業公開を実施して、全教員で参観した。昨年度の研究内容を授業を通して確認できたことに加えて、若年教員の指導力向上にも効果的であった。

### ⑤ 各種研修会参加及び他校訪問

研究発表会や全員研修会等に参加し、内容を報告したり資料を配付したりするな

ど、教育情報を職員に伝達した。また、オンリーワン校を訪問し、音読暗唱ブック「ひまわり」の効果的な活用の仕方について学んだ。

⑥ B研による授業の練り合い

各学年で事前授業（B研）を行い、同学年及び学力向上推進委員会を中心に参観し、授業内容について協議を行った。

(3) 環境整備班

① 学級掲示物・廊下掲示物等の作成（\* 資料6）

学級の掲示物や廊下の掲示物を、学習規律班と相談して作成した。今年度は

- ・生活科、社会科の掲示物
- ・国語科の「言葉の学習」
- ・勉強がよくわかるための十か条 を作成した。

また、特別支援が必要な児童に対して、個別に指導支援が行える掲示物も準備し、個に応じた指導が行いやすくなるようにした。

② 学校ホームページの作成

③ 実践交流会の実施に向けた計画（校舎内清掃計画等）

実践交流会の実施に向けて、保護者に「窓拭き清掃」の協力を求めた。

④ 各種研修会参加及び他校訪問

全員研修会等に参加し、校内環境等について情報を集め、職員に伝達した。また、オンリーワン校を訪問し、校内の環境整備について学んだ。

⑤ 児童に対して、掲示物をどれほど認知しているかの聞き取り調査を行う。休み時間に掲示物をどれほど見るか、掲示物の存在を知っているか など



(4) 学力向上推進委員会

① CRT、全国学力・学習状況調査結果の分析

<CRT（教研式標準学力検査 4月17日実施）より>

◎ 教科別考察

《国語科》

- ・ 23年度、24年度とも全国比を上回る学年が多く、研究の成果が出ているように思われる。
- ・ 5年生が大きな伸びを示している。

《算数科》

- ・ 23年度は、全ての学年で全国比を下回っていた。また、上学年の方が全国比との差が大きかった。
- ・ 24年度は全国比を上回り、昨年度と比較すると、大きな伸びを示している。

## ◎ 観点別考察

《国語科 昨年度と24年度の比較から》

- ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国比を上回っている。
- ・ 昨年度に比べ、言語事項のポイントが低下した学年が2学年ある。また、全国比も下回っている。

《算数科 昨年度と24年度の比較から》

- ・ 3年生の図形を除き、各領域とも向上している。全国比も上回る傾向にある。

※ 両教科ともに、5年生の伸び幅が他の学年に比べ、大きい。

## ＜全国学力・学習状況調査 4月17日実施より＞

23年度は、4項目全て県正答率を下回っていたが、24年度は、国語A・国語B・理科において県正答率及び全国正答率を上回っている。特に、今年度から始まった理科については、全国正答率を大きく上回っている。これは、理科専科を取り入れた学習形態が児童の学力向上に大きく貢献していることが伺える。また、国語科についても、昨年度からの学力向上に向けた本校の取り組みが効果をあげているものと考えられる。

算数科においては、算数Bにおいて、県正答率と同じ正答率となった。昨年度は県正答率を下回っていたことを考えると、児童の学力向上が伺える。B問題が向上したことを考えると、交流活動を取り入れた授業形態が、思考力の向上に効果的であったのではないかと推測される。算数Aにおいても、県正答率との差が縮まってきており、着実に基礎的・基本的な学力が定着していることが伺える。

以上のことから、昨年度から行ってきた本校の取り組みが、児童の学力の向上に効果を上げてきていると思われる。今年度も、昨年度の取り組みを引き継ぎながら進めていけばよいことを裏付ける結果と考えている。

## ＜CRT及び全国学力・学習状況調査の結果の分析より（まとめ）＞

- ・ 昨年度の取り組みを今年度も自信を持って続けていって大丈夫であること。
- ・ CRTの結果から、向上が著しい現5年生の授業に学ぶため、1学期の早いうちに昨年4年生担任の先生に公開授業をおこなっていただき、全職員で参観を行い、今年度の研究に参考とすること。（実施済）
- ・ 学習規律班の「身の回りの整理・整頓」が、CRTの向上につながっていると推測されることから、今年度もより一層の整理整頓に力を注ぐこと。
- ・ 環境整備班の行った掲示物をより多くの児童が関心をもって見ている姿や、教室内の掲示が交流活動の活発さにつながっている様子から、今年度もより児童の注目を集める掲示物の作成に取り組むこと。
  - ② 各班による計画内容の提案・審議のサポート
  - ③ 実践交流会に向けた計画・準備（参加者の集約、要項等の作成）

## (5) その他の取組

### ① 学校図書館の整備

本校は、平成21年度より「学校における読書活動推進モデル事業」のモデル校（永犬丸中学校区）として、学校図書館の整備及び効果的な活用を努めている。具体的には、ブックヘルパー（保護者により休業日を除く毎日2名）の活用により、図書館の常時開館を実現している。

また、「未来を開く学校づくり支援事業」の支援を受け、新刊図書や書架の購入、低学年図書室の畳の読書スペースの設置などを行ってきた。現在は、昼休み時間の利用者が毎日50名程度おり、児童の1ヶ月間の平均読書冊数が学年に1人40冊をこえる学年もある。

図書館が常時開館されており、常に大人が管理しているため、授業中の調べ学習の充実や読書意欲の向上など、児童の学力の向上に側面から寄与している。さらに、24年度の2学期からは、バーコード化を導入し、児童の利用手続きが簡素化され、より効率的な図書室の活用が行えるようになったことも学力向上につながるのではと期待している。



### ② 専科指導教員による授業（理科）

昨年度、専科指導教員を配置していただき、小学校における専科指導の効果等についての研究を進めている。

具体的には、5・6年生の理科の授業を専科指導教員が受けもっている。

専属の指導者による統一した授業を行うことにより、専門性の高い高学年理科の授業を充実させることができ、児童の学力の向上に役立っている。全国学力・学習状況調査の結果からもその成果が伺える。



## 8 研究経過

4月12日（木）

1. 本年度研究主題について
2. 班編成について

4月18日（水）

CRT、全国学力・学習状況調査実施

5月2日（水）

各班編成決定

5月7日（月）

学習アンケート実施（学習規律班）

5月29日（火）

CRT結果（今年度分）報告

6月15日（金）

プロジェクトリーダー会議（授業づくり班）

6月18日（月）

プロジェクトリーダー会議（学習規律班）

6月20日（水）

プロジェクトリーダー会議（環境整備班）

6月25日（月）

1. CRT結果（各観点別）報告
2. 各班活動計画・活動内容確認
  - ◇ 学習規律班
    - アンケート結果の分析
  - ◇ 授業づくり班
    - 八枝スタンダード（授業づくり編）の項目について
      - ・ 授業改善シートの項目の修正
      - ・ 授業者確認
  - ◇ 環境整備班
    - 掲示物について
      - ・ 国語科のパネル

6月27日（水）

5年3組授業公開（5校時 算数科）全職員参観

6月27日（水）

国語科単元、指導案協議（城戸指導主事来校）

- ・ 1年
- ・ 5年

他の4学年は各学年授業内容等検討

7月3日（火）

社会科単元、指導案協議（高松指導主事来校）

- ・ 3年
- ・ 6年

他の4学年は各学年授業内容等検討

7月20日（金）

算数科単元、指導案協議（長野指導主事来校）

- ・ 2年
- ・ 4年

他の4学年は各学年授業内容等検討

8月30日（木）

指導案協議（国語科・社会科）、模擬授業（算数科）

（城戸・高松・長野指導主事来校）

9月5日（水）

各班活動内容確認

- ◇ 学習規律班
  - 「勉強がよくわかるための10か条」
- ◇ 環境整備班
  - 国語科パネル掲示
  - 「勉強がよくわかるための10か条」作成
  - 特別支援の必要な児童への掲示物作成
- ◇ 授業づくり班
  - 教案及び授業内容の最終確認

9月19日（水）

1. 交流会当日の役割分担確認
2. プロジェクトリーダーとの最終確認
3. 現時点での成果と課題の共通理解

## 9 研究の成果と課題

児童の日常の学習の様子やアンケート結果の内容、昨年度の課題を踏まえ、現時点での成果を以下の5点にまとめた。

- ① 昨年度と今年度の CRT 及び全国学力・学習状況調査の結果を比較することによって、学力の定着の状況を把握することができた。昨年度からの取り組みが確実に成果を上げていることから、本研究を続けていく自信をもつことができた。
- ② 各班のリーダーとの会議を行うことによって、各班での活動や班同士での連携に必要な連絡を、推進委員長が行いやすくなった。また、昨年度に引き続き、3つのプロジェクト班が活動することで、班の専門性を生かした活動が効率よく行えている。（\* 資料7）

### \* 資料7 各班の活動の様子

学習規律班（十か条の作成）



授業づくり班（会議）



環境整備班（掲示物作成）



- ③ CRT や全国学力・学習状況調査の結果を観点別に分析することにより、児童に最も身に付けさせる必要のある観点を明確にすることができた。
- ④ 授業づくり班を中心に言語活動の工夫と交流活動のもち方を確認することを通して、教科間の共通認識を行うことができた。国語科のみでなく、算数科、社会科など、全ての教育活動で言語活動の充実を図る必要があることを確認したり、授業の中で交流活動を行うことが学力をより確かなものにしていくという確認を行ったりした。また、検証教科が3教科に増えたことにより、それぞれの教科の特質を綿密に話し合ったり、考え合ったりすることができた。  
さらに、学習指導案の検討や教材研究を通して、ICT 機器の積極的な活用の意識が高まった。機器の使用方法など教え合う場面も多かった。  
教科別に指導主事の方々に来校を願い、指導案協議を計画的に行ったことで、研究が充実するとともに、より詳しく授業について、考えることができた。
- ⑤ 小中連携の視点としては、北九州市の不登校対策研究モデル校として、中学校区という枠組みの中で「挨拶」に焦点をあてて行うことにした。自分の気持ちを確実に相手に伝えるという意味では、挨拶も広い意味での交流活動と考えることができ、本校の取り組みともつながるものといえる。中学校区で統一した挨拶についての掲示物を作成したり、中学校教諭が本校の登校時間に本校児童への挨拶運動を行ったりしている。

また、現時点での課題とその改善策について、以下の5点にまとめた。

- ① 昨年と今年度のCRT 結果の比較による学力定着の検証を中心に行ったため、低学年（2年生）の学力の定着の検証ができていない。  
→ 今後、市販テストの分析や学習状況の調査・観察により実施していく。
- ② 学力向上推進委員会の時間の確保ができなかった。そのため、3つのプロジェクトリーダーに任せてしまう事柄が多くなってしまい、リーダーに負担をかける結果となった。  
→ 学力向上委員会を確実に機能させてお互いの共通理解を強め、より有意義な実践に努めていく。
- ③ CRT等の分析に基づき、年間を見通した授業づくりができなかった。  
→ データ分析を年間の出来るだけ早期に行い、本校児童の学習の課題をより明確にするとともに課題となる内容に重点を置いたカリキュラムを考える。
- ④ 言語活動の充実を図る組織的な取組を一層充実させる必要がある。  
→ 朝自習時間を活用した全校一斉の音読・暗唱の時間の設定などを検討する。
- ⑤ 八枝スタンダードの作成については、項目内容の修正や実践を中心に作業を進めてきた。現時点では冊子等にまとめることはできていない。  
→ 今後、実践の成果と課題を基に修正を加え、冊子としてまとめていく予定である。

# 別紙資料

( \* 別紙 1 )

べんきょう じゅつ じょう  
勉強がよくわかるための十か条

- 1 身みの回まわりの整せい理り整せいとんをします。
- 2 チャイムがなったら、席せきにつき、授じゅ業ぎょうの準じゅん備びをします。
- 3 名な前まえをよばれたら、大おおきな声こえで返へん事じをします。
- 4 みんなにできるだけわかるように発はつ表びょうします。
- 5 友ともだちの発はつ表びょうに拍はく手しゅをしたり、ままちがいにはややさしく教おしえたり  
します。
- 6 やる気きをもつて、勉べん強きょうします。
- 7 しせいよく話はなしを聞ききます。
- 8 ノートきいごを最さい後ごまでていねいに書かきます。
- 9 ドリルやススキルやププリントをままじめめにします。
- 10 おうちで、(30分ぶん・45分ぶん・60分ぶん)ききちちんんと勉べん強きょうします。

( \* 別紙 2 )

平成 24 年度 教員用

## 学力向上ステップアップ事業の反省

北九州市立八枝小学校

とてもよく努力した	4	努力した	3
少し努力がたりなかった	2	できなかった	1

- 1 身の回りの整理整頓が児童に定着してきた。  
( 4 3 2 1 )
- 2 チャイム席及び授業の準備が児童に定着してきた。  
( 4 3 2 1 )
- 3 名前を呼ばれたときに、返事をする習慣を付けさせることができてきた。  
( 4 3 2 1 )
- 4 発表の仕方が児童に定着してきた。  
( 4 3 2 1 )
- 5 友達の発言に対して拍手をしたり、認める発言をしたりする、あたたかい集団づくりができてきた。  
( 4 3 2 1 )
- 6 子ども全員を授業に参加させるように努めた。  
( 4 3 2 1 )
- 7 姿勢よく話を聞かせるように努めた。  
( 4 3 2 1 )
- 8 ノートのとり方が児童に定着してきた。  
( 4 3 2 1 )
- 9 基礎・基本の力の定着と自ら学び考える力のバランスのよい育成に努めた。  
( 4 3 2 1 )
- 10 家庭学習を定着させるように努めた。  
( 4 3 2 1 )

( \* 別紙 3 )

へいせい ねんど  
平成24年度 児童用

きたきゅうしゅうしりつやつえしょうがっこう  
北九州市立八枝小学校

べんきょう はんせい  
勉強の反省

ねん 年	くみ 組	ばん 番	なまえ 名前	
---------	---------	---------	-----------	--

とてもよくがんばった	4	がんばった	3
少しがんばりがたりなかった	2	がんばれなかった	1

- 1 身の回りの整理整頓をするようにしている。  
( 4 3 2 1 )
- 2 チャイムがなったら、席につき、授業の準備をするようにしている。  
( 4 3 2 1 )
- 3 名前をよばれたときに、大きな声で返事をするようにしている。  
( 4 3 2 1 )
- 4 みんなによくわかるように発表をしている。  
( 4 3 2 1 )
- 5 友だちのよい発表に拍手をしたり、まちがいはやさしく教えてあげたりしている。  
( 4 3 2 1 )
- 6 授業にやる気をもって参加するようにしている。  
( 4 3 2 1 )
- 7 しせいよく話を聞くようにしている。  
( 4 3 2 1 )
- 8 ノートをていねいに最後まで書くようにしている。  
( 4 3 2 1 )
- 9 自分で考えて問題をとこうと努力し、ドリルやスキルやプリントをまじめにするようにしている。  
( 4 3 2 1 )
- 10 おうちで、時間内はきちんと勉強するようにしている。  
(1・2年生30分 3・4年生45分 5・6年生60分)  
( 4 3 2 1 )

1. 単元名 MSゴシック 10.5P

2. 単元設定の理由

○ 児童の実態 MSゴシック 10.5P

○○○○○・・・・・・・・・・。 MS明朝 10.5P 、→、(読点は全角カンマを使用)

一つ目の○に、児童の実態を書く。

前半：既習の学習を通して身に付いている力、不十分な力などを、具体的に記述  
主として身に付けさせたい単元目標に関するものに限定

後半：CRTの結果から、実態を記述  
主として身に付けさせたい単元目標に関するものに限定

○ 本単元の意義 MSゴシック 10.5P

○○○○○・・・・・・・・・・。 MS明朝 10.5P

二つ目の○に、本単元の意義を書く。

- ・ 単元の主たるねらい(一つ目の○の内容と重なる)
- ・ 教材のもつ価値 など

○ 指導に当たって MSゴシック 10.5P

<言語活動の充実を図るための手だて> MSゴシック 10.5P

<交流活動の具体的な場面や方法> MSゴシック 10.5P

三つ目の○に、言語活動の充実を図るための手だてを書く。

- ・ 主となる言語活動(記録する、報告する、説明する、文章を読む、感想を述べる、感想を書く、意見を述べる、音読する、朗読する、紹介する、推薦する、比較して読む、批評する、手紙を書く、物語や随筆を書く、メモする、インタビューする、助言や提案をする、話し合う、対話する、討議する、討論する など)と、他教科、他単元との関連を示す。
- ・ 交流活動の具体的な場面や方法を示す。

3. 単元の目標

○○への 関心・意欲・態度	○ ○○○・・・・・・・・・・MS明朝 10.5P ○○○・・・・・・・・・・。
能力	○
能力	○ ○
○○についての 知識・理解・技能	○

4. 単元の学習計画（総時数〇時間）

学 習 活 動	<input type="checkbox"/> 指導・支援上の留意点 <input type="checkbox"/> 言語活動の充実を図るための手だて
1 ○○○・・・・・・・・。MS明朝 10.5P ① (1) ○○○・・・・・・・・, ○○○○○○○○○。	<input type="checkbox"/> ○○○・・・・・・・・MS明朝 10.5P <input type="checkbox"/> ○○○・・・・・・・・。
2 児童が主語で記述する。 ⑥ (1) ～を使って, ～する。 ～を考え, ～をまとめる。  (2) ○○○・・・  (3) ○○○・・・  (4) ○○○・・・ ○○○○・・・・・・・・。(本時)  (5) ○○○・・・  (6) ○○○・・・	<input type="checkbox"/> 教師が主語で記述する。 ～を通して, ～ができるようにする。 ～させる。 <input type="checkbox"/> ～をさせ, ～ができるように指導する。 ～を助言する。 <input type="checkbox"/> 学習活動に対応させて記述する。  <input type="checkbox"/> 主な言語活動と他教科・他単元との関連に 限定して記述する。単なる留意点にならない ように。  <input type="checkbox"/> ○○○・・・  <input type="checkbox"/> ○○○・・・
3 ○○○・・・・・・・・。 ① (1) ○○○・・・	<input type="checkbox"/> ○○○・・・ ・ 下位項目は1マス下げる。 ・ ○○○・・・

5. 本時の展開（第〇次 第〇時） 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇） 〇校時 〇年〇組教室

主眼

教師が主語で記述する・・・・・・・・を通して, ・・・・・・・・  
 ・・・・・・・・ができるようにする。

準備

展開

主な学習活動・内容	<input type="checkbox"/> 指導・支援上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準（判断基準）及び評価方法
1 ○○○・・・・・・・・。MS明朝 10.5P・・・・・・ ・ 児童が主語で記述する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">めあて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 200px;">～をしよう。</div>	<input type="checkbox"/> ○○○・・・・・・・・MS明朝 10.5P <input type="checkbox"/> ○○○・・・・・・・・。 <input type="checkbox"/> 教師が主語で記述する。指導・支援上の 留意点を, できるだけ具体的に書く。

2 ○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

- ○○○・・・・・・・・。MS明朝 10.5P
- 活動の方法や内容について、文や図、絵などを使って具体的に説明する。
- 予想される児童の反応を書く。
- 学習形態やグループなどについて書く。
- 
- 

○ ○○○・・・・・・・・

○○○○・・・・・・・・

○○○○・・・・・・・・

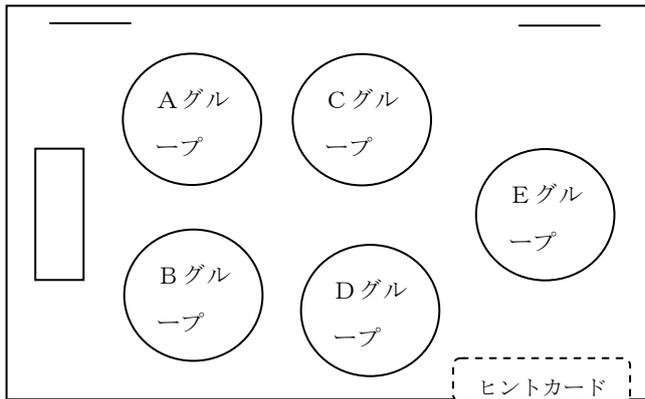
◆おおむね満足 (B)

【 】 評価規準を書く。活動内容を踏まえ、「おおむね満足」と判断する際の判断基準、を児童の姿として具体的に記述する。MS明朝 10.5P  
(評価方法)

◆十分満足 (A)

【 】 活動内容を踏まえ、「十分満足」だと評価する際の判断基準を、児童の姿として具体的に記述する。  
(発言分析、記録分析、行動観察)

3 ○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・。



○ 評価規準 (B) に達していない児童 (C) に対する、指導・支援の具体を記述する。

○ 主眼達成または学習活動の充実や安全確保のために必要だと思われる内容に絞って留意点を記述する。

◆おおむね満足 (B)

【 】 評価規準は1時間の展開で、1～2個を設定する。  
(発言分析、記録分析、行動観察)

◆十分満足 (A)

【 】 Aは評価規準 (B) に対して、能力的に一段階上回った児童の姿として記述する。(評価方法)

4 ○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

○ ○○○・・・・・・・・

○○○○・・・・・・・・

○○○○・・・・・・・・

5 ○○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

○ ○○○・・・・・・・・

○○○○・・・・・・・・

○

○

※ 次ページに授業改善シートを添付する。ワークシート等の資料があればその後ろにつける。

(\* 別紙5)

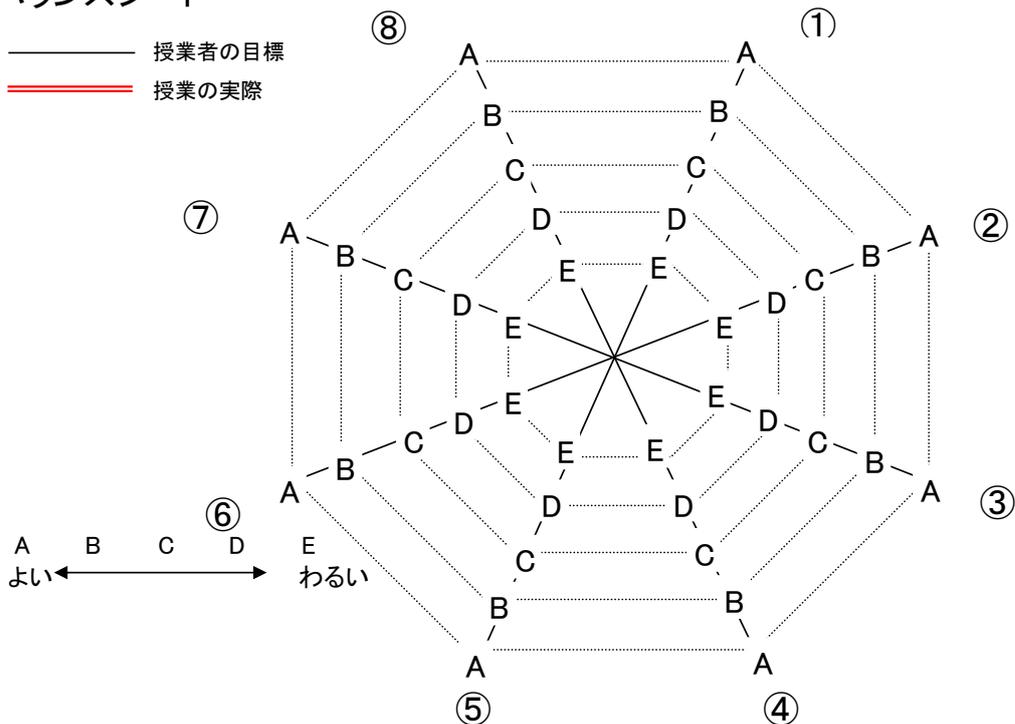
### 授業改善シート

授業日	年	月	日	校時	教科等名			
記入者	所属	学校	職名		氏名			

参観ポイント		コメント記入欄
<b>授業全般</b>		
①	教師は一人一人の児童を十分理解し、表情豊かに授業をしている。	
②	発達の段階に応じた望ましい学習規律が定着している。	
③	ねらいに沿って、児童の学習意欲を喚起する教材教具・学習環境が準備・整備されている。	
④	「めあて」と「ふり返し」があり、構造的でわかりやすい板書になっている。	
⑤	発問は意図が明確で、思考を促すものになっている。	
⑥	児童自らが考えたり、説明したりする主体的な活動場面がある。	
<b>主となる言語活動(関連)</b>		
⑦		
<b>交流活動</b>		
⑧		
<b>自由設定欄</b>		
<b>感想・意見等記入欄</b>		

### バランスシート

—— 授業者の目標  
 == 授業の実際



メモ



伝統クラブ練習の様子

# 公開授業学習指導案

# 第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 中村 真理

1. 単元名 いきものみつけかたずかんを つくろう  
教材名 「みいつけた」

## 2. 単元設定の理由

### ○ 児童の実態

本学級の児童は、「あいうえおで あそぼう」や「おむすびころりん」などのリズムのある文章を好み、楽しみながら音読してきた。また「くちばし」では、問いと答えが繰り返されていることを理解し、事柄の順序を考えながらクイズづくりに取り組んだ。しかし、文末表現に着目するなどして分かりやすい事柄の順序について考える力はまだ十分に育っていない。本単元では、説明文の答えの文の構造を読み取り、順序を大切にしながら分かりやすい文章を作ろうとする態度を育てたい。

### ○ 本単元の意義

本単元は、説明的な文章を読み、気付いたことや思ったことを話し合ったり、図鑑に自分の知らせたい「いきもの」のことを書いたりする活動を通して、説明が「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」の順になっていることに気を付けながら、内容の大体を読み取ることができるようにすることがねらいである。教材文が三つのまとまりからなっており、すべて同じ順序で書かれていることに気が付くためには、「だんごむし」「せみ」「ばった」の文を比較し、共通点や書き方の特徴を見つけ出すことが必要である。全員で、「てんとうむし」の事例を考えることにより、事柄の順序を考えながら自分のいきもの図鑑の説明を考えることができるようにしたい。

### ○ 指導に当たって

#### <言語活動の充実を図るための手だて>

児童は日常生活や生活科の学習を通して、身近な生き物に接しており、知っている生き物を友達に知らせたいという意欲をもっている。単元の導入に「いきものみつけかたずかん」を提示し、意欲的に取り組めるようにする。また、生活科の学習で保育園児と交流する際に、できた図鑑を見せてあげるということで、目的・相手意識をもたせるようにする。

さらに、順序よく説明するという文型を理解することで、「じどう車くらべ」の教材文を学習する際に使ったり、生活科の学習等で見つけたことをわかりやすく伝えたりすることができると考えられる。さらに、他の教科や単元活動の中でも、この順序よく説明する力を生かしていきたい。

#### <交流活動の具体的な場面や方法>

学級の友達や保育園児に生き物のことを教えてあげるためには、読み手に分かりやすく書く必要がある。自分の作った文を並べて友達に見てもらふことにより、読み手を意識した図鑑づくりに取り組むと考えられる。友達から「分かりやすいよ」「こうしたらもっといいかもしれない」などの意見をもらうことで、作っている図鑑が自信や確信のもてるものとなるであろう。

## 3. 単元の目標

国語への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 生き物について書いてある図鑑や読み物に興味をもち、進んで読もうとする。</li><li>○ 自分の経験と結び付けて読もうとする。</li></ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"><li>◎ どのまとまりも、三つの同じ事柄の順序になっていることを考えながら、内容の大体を読みとることができる。</li><li>○ 説明的な本や文章を読み、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思ったことや考えたことを発表したり書き表したりすることができる。</li></ul>

言語についての 知識・理解・技能	○ 文の中における主語と述語の関係に注意して、文章を読んだり書いたりすることができる。
---------------------	---

#### 4. 単元の学習計画（総時数8時間）

学 習 活 動	○ 指導・支援上の留意点 ○ 言語活動の充実を図るための手だて
<p>1 学習のめあてを理解し、学習計画をたてる。②</p> <p>(1) 挿絵を見て、経験を交流する。</p> <p>(2) 「いきものみつけかたずかん」をつくる学習計画を立てる。</p> <p>2 「みつけた」を読みながら、「いきものみつけかたずかん」を作る。④</p> <p>(1) 「みつけた」を読んで、知らなかったことや、おもしろいなど思ったことを話し合う。</p> <p>(2) 本文の問いに対する答えを探し、「いきものみつけかたずかん」に必要な項目を理解する。</p> <p>(3) 生き物について取材し、短冊をつくる。</p> <p>(4) てんとうむしの図鑑を例に、自分の選んだ生き物の説明の順序を考える。<b>(本時)</b></p> <p>3 「いきものみつけかたずかん」を完成させ、友達と交流する。②</p> <p>(1) 自分の図鑑を仕上げる。</p> <p>(2) 「いきものみつけかたずかん」に書いたことを発表し、感想を伝え合う。</p>	<p>○ 知っている生き物を考えさせることによって、学習意欲を喚起する。</p> <p>○ 友達や保育園児に見せることをゴールとして設定し、見通しをもたせる。</p> <p>○ 本文の中の難解な語句の理解や、初めて知ることが増えることへの好奇心をうながす。</p> <p>○ 3つの生き物を比較することで「いきものみつけかたずかん」は「問い」の答えとなっており、「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」が書いてあることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 短冊に分けて書くことで、生き物の説明のまとまりを意識することができるようにする。</p> <p>○ 生活科の学習や日頃の知識を利用し、気付いたことを書いたメモなどを使うことができるようにする。図書館から生き物を調べることができる読み物を借りてそろえておく。</p> <p>○ 教師が用意した短冊を並びかえたり、「だんごむし」と「せみ」の書き方を比較したりすることで、「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」の順に文が並んでいることに気付かせる。</p> <p>○ 隣の友達と考えを交流することを通して、自分の図鑑の短冊の並びを決めることができるようにする。</p> <p>○ 挿絵を入れるなどして、楽しく分かりやすい図鑑になるようにする。</p> <p>○ 感想を言うことができるよう個別に支援する。</p> <p>○ 友達の発表を聞いて、上手な書き方だと思ったことを伝え合うことができるようにする。</p>

#### 5. 本時の展開（第2次 第4時） 平成24年10月4日（木） 5校時 1年2組教室

○ 主眼

「てんとうむし」の短冊を並べたり、「だんごむし」「せみ」「ばった」の説明の順序を比較したりすることを通して、自分の短冊を「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」の順に並べることができるようにする。

- 準備 てんとうむしの写真, てんとうむし図鑑用の短冊 (教師用)  
児童の選んだ生き物の短冊 (第2次第3時に作成), 児童のずかんシート
- 展開

主な学習活動・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導・支援上の留意点</li> <li>◆ 評価規準 (判断基準) 及び評価方法</li> </ul>
1 前時までの学習を想起し, 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までに, 生き物の説明が「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」の3つの内容できていること, 自分の書きたい生き物をその3つの内容で取材したことを, 掲示物を見て思い出させるようにする。</li> <li>○ 本時は, 図鑑の説明が分かりやすい順序になるように短冊を並べていくことを確認する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>めあて</b> みつけかたずかんの たんざくのならばかたを きめよう。         </div>	
2 「てんとうむし」の生き物図鑑の説明の順序を考える。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文末表現に着目し, 線を引く。</li> <li>・「だんごむし」の説明の順序を読み取る。</li> <li>・てんとうむしの短冊(「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」)を並び替える。</li> <li>・「せみ」の文と比べ, 図鑑の説明の順序を確認する。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ てんとうむしの事例を出すことにより, 短冊(「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」)を順序よく並べることの必要性に気付くことができるようにする。</li> <li>○ 「だんごむし」「せみ」の説明の部分を順序に注目して比較し, 「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」が分かりやすい順序に並べてあることに気付かせる。</li> </ul>
3 自分の選んだ生き物の説明の短冊を並べる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに作っている自分の短冊を「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」の順に並べる。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆おおむね満足 (B) 【読】自分の選んだ生き物の短冊を「いるところ」「とくちょう」「みつけかた」の順に並べることができる。(行動観察)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆十分満足 (A) 【読】自分の選んだ生き物の説明の短冊を順序よく並べることができ, 「とくちょう」と「みつけかた」の関連を理解している。 (発言・行動観察)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短冊をどのように並べたらよいか分からない児童には, ヒントカードを提示する。</li> </ul>
4 並べた順序を友達に見せて, 考えを言い合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達と並べた短冊を見せ合い, 短冊が順序よく並んでいるか確かめさせ, 図鑑の内容やその並べ方について交流するよう伝える。</li> </ul>
5 本時のまとめをし, 次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達の考えを聞いて, もう一度自分の並べ方を見直していくことができるようにする。</li> </ul>

( \* 別紙5 )

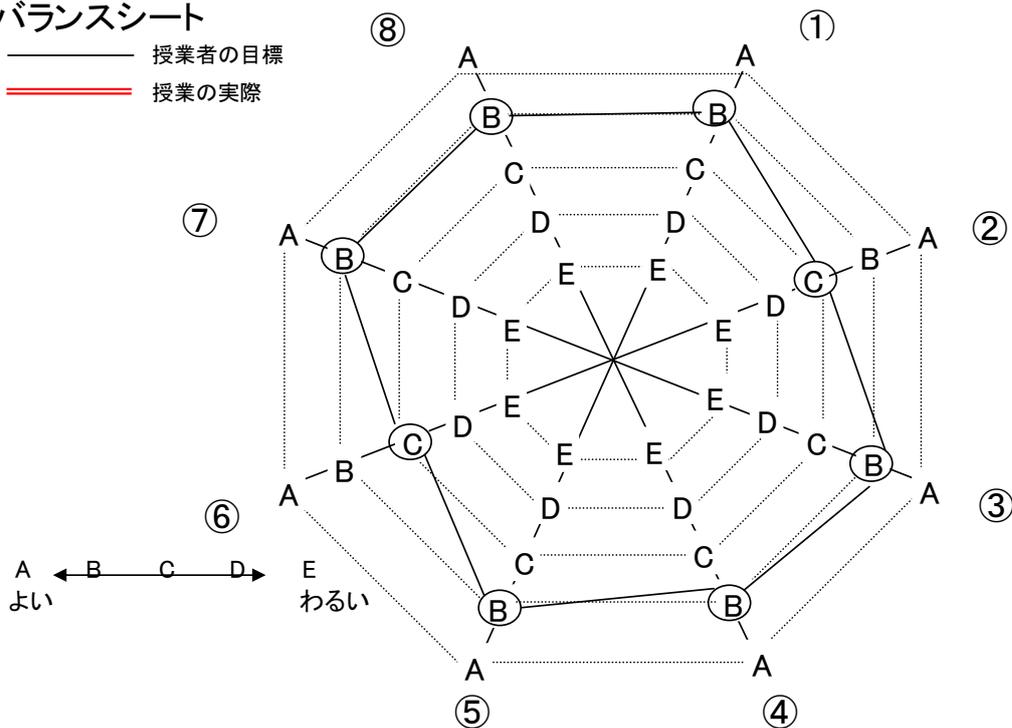
### 授業改善シート

授業日	24年	10月	4日	5校時	教科等名	国語科
記入者	所属	学校	職名	氏名		

参観ポイント		コメント記入欄
<b>授業全般</b>		
①	教師は一人一人の児童を十分理解し、表情豊かに授業をしている。	
②	発達の段階に応じた望ましい学習規律が定着している。	
③	ねらいに沿って、児童の学習意欲を喚起する教材教具・学習環境が準備・整備されている。	
④	「めあて」と「ふり返り」があり、構造的でわかりやすい板書になっている。	
⑤	発問は意図が明確で、思考を促すものになっている。	
⑥	児童自らが考えたり、説明したりする主体的な活動場面がある。	
<b>主となる言語活動(関連)</b>		
⑦	順序に気を付けながら、図鑑の文の構成を考えることができる。	
<b>交流活動</b>		
⑧	友達の図鑑の説明を聞いて、うなずきや言葉で返すことができる。	
<b>自由設定欄</b>		
<b>感想・意見等記入欄</b>		

### バランスシート

—— 授業者の目標  
 —— 授業の実際



指導者 深江 昭洋 (T1)

野見山 眞紀子 (T2)

## 1. 単元名 ふえたり へったり

## 2. 単元設定の理由

## ○ 児童の実態

本学級のアンケートの結果から、34名中6名の児童が、「計算の仕方がわからない」や「計算が面倒くさい」などを理由に、算数の学習を苦手としていることが分かった。既習の2位数+1位数や2位数-1位数の計算を暗算でしたり、くり上がりやくり下がりのあるたし算やひき算を筆算で計算したりできる児童は多くみられるが、指を使って考えたり、数図ブロックなどの半具体物を操作したりして計算するなど計算に時間がかかる児童が数名いる。児童は「3つの数の計算」を学習しており、増増や増減の問題を、数図ブロックを操作したり、矢印の図をかいたりして、問題を解く経験をしている。事前調査テストでは、3つの数の計算の文章題を立式し、答えを導くことができる児童が多く、そのほとんどが、順に考える方法で解くことができていた。しかし、問題の解き方や自分の考えを、図や言葉、式に表して説明できる児童は少ない。

観点別学力状況調査の結果では、全領域が全国平均を下回り、特に「数量関係」の内容が定着していない。また、式を、言葉や図などと関連付けて自分の考えを説明したり、分かりやすく伝え合ったりするなど表現力、思考力が身に付いていない。

## ○ 本単元の意義

本単元は、やや複雑な問題の数量関係を単純化し、簡潔に解決できるように、変量に着目して、「まとめて考える」という考え方のよさに気づき、問題を解決する力を伸ばすことをねらいとしている。

増増や増減(減増)の場面の問題を、順にたす考え方では解けるが変量に着目した考え方で解けない児童が多くいると思われるので、数図ブロックを操作したり、問題場面を適切に表現した矢印の図に表したりする活動を通して、数量関係をとらえ、「まとめて考える」考え方で問題解決を図ることができるようにしたい。

## ○ 指導に当たって

## ＜言語活動の充実を図るための手だて＞

自力解決の後に、ペアの交流場面を設ける。式だけでなく、どのような方法で考えたのかを、矢印の図を用いて友達に説明したり、友達の考えを聞いたりして、友達の考えと同じところとちがうところを見つけさせるようにする。自分の考えと友達の考えを比べることで、自分の考えを整理して理解を深めることができると考える。

## ＜交流活動の具体的な場面や方法＞

全体交流の場面では、友達の考えを聞いて自分の考えと比べたり、「順にたす方法」と「まとめて考える方法」のどちらが「はやく・簡単に・正確に」できるやり方かを既習の増増の考え方を基に考えたりすることができるようにする。自分の考えを図や言葉を用いて説明することで、より理解を深めることができることに気付かせ、他の単元や場面においても活用できるようにしたい。

### 3. 単元の目標

算数への 関心・意欲・態度	○ 増減する数量に着目して、「まとめて考える」という考え方のよさに気づき、これを活用しようとする。
数学的な考え方	○ 増減する数量に着目し、まとめて考えることができる。
数量や図形についての 技能	○ 増減する数量を、数図ブロックを操作して表したり、図をかいて表したりすることができる。
数量や図形についての 知識・理解	○ 増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解する。

### 4. 単元の学習計画（総時数 3時間）

学 習 活 動	○ 指導・支援上の留意点 ○ 言語活動や交流活動の充実を図るための手だて
1 加減の組み合わせされた、3要素2段階の問題を加減の数量に着目した考え方で解く。③ (1) 増増の場面の問題を、順に考えたり、増える数に着目してまとめて考えたりして解く。 (2) 増増の場面の問題を、数量に着目して、まとめて考える考え方で解く。 (3) 増減(減増)の場面の問題を、数量に着目して、まとめて考える考え方で解く。 <b>(本時)</b>	○ 増増や増減(減増)の問題場面で、変量に着目して「まとめて考える」という考え方を、式や図、ブロックなどを用いて説明し合う場を設定する。 ○ 増増や増減(減増)の問題場面で、変量に着目して「まとめて考えて解く方法」のよさに気付かせるために、考えを交流する場を設定する。

### 5. 本時の展開（第1次 第3時） 平成24年10月4日（木） 5校時 2年2組教室

○ 主眼

増減の問題を図や言葉に表して考える活動を通して、変量に着目し、「まとめて考える」方法で問題を解き、そのよさに気付くことができるようにする。

○ 準備 数図ブロック、ヒントカード

○ 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 ◆ 評価規準(判断基準)及び評価方法		
1 問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             広場に さるが <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">12ひき</span> いました。そこへ6ひき やってきました。その あと 4ひき 帰りました。さるは 何ひきに なりましたか。           </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <b>わかっていること</b>                ・さるが6ひきやってきて4ひきかえた。                ・はじめの数は12ひき。             </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <b>たずねていること</b>                ・さるは何ひきになったか。             </td> </tr> </table> </div>	<b>わかっていること</b> ・さるが6ひきやってきて4ひきかえた。 ・はじめの数は12ひき。	<b>たずねていること</b> ・さるは何ひきになったか。	○ 児童にとって「増えて減り、結果的に増える」というところの理解が難しい。そこで、増える、減るが視覚的に分かるように矢印や色を使う挿絵を基に、挿絵と問題文を対応させて数量関係をとらえさせることで、問題のイメージ化を図る。 ○ 前時の問題との違いを確認する場を設けることで、本時は、増減の問題であることに気付かせる。また、まとめて考える方法のよさを振り返り、本時でもまとめて考えると簡単に計算できそうだという見通しをもたせるようにする。
<b>わかっていること</b> ・さるが6ひきやってきて4ひきかえた。 ・はじめの数は12ひき。	<b>たずねていること</b> ・さるは何ひきになったか。		

2 本時のめあてをつかむ。

めあて ふえたり へったりするもんだいを

まとめて考えるほうほうでとき、せつめいしよう。

3 自力解決をする。

<予想される児童の考え>

① <順に計算する方法>

はじめ 12ひき

ふえて 18ひき

しき  $12 + 6 = 18$   $18 - 4 = 14$

こたえ 14ひき

まず、はじめの12ひきに、やってきた6ひきを足しました。次に、18ひきから、かえった4ひ

② <まとめて考える方法>

はじめ  
12ひき

しき  $6 - 4 = 2$   $12 + 2 = 14$

こたえ 14ひき

まず、やってきた6ひきからかえった4ひきをひきました。差しひいた2ひきを全体の12ひきにたしました。さるのかずは14ひきです。

4 考えを発表し、学びあう。

- (1) ペアで問題の解き方を説明し合う。
- (2) 全体に発表し、話し合う。

5 練習問題をする。

広場に さるが **27ひき** いました。そこへ6ひき やってきました。その あと 4ひき 帰りました。さるは 何ひきに なりましたか。

6 全体で話し合う。

<話し合いの視点>

- ・「順に計算する方法」と「まとめて考える方法」の式は、どこがちがうだろう？
- ・どちらの方法が、「㊥、㊦、㊧」のやり方だろう？
- ・順に計算するよりも、増えたり減ったりしたところだけを先に計算したほうが、かんたんです。
- ・小さい数の計算を先にして、大きい数にたすほうがまちがえずに計算できます。

7 本時の学習のまとめをする。

まとめ まとめて考えると いくらふえたのかがわかり、かんたんに まちがえずに けいさんできる。

◆おおむね満足 (B)

【考】増減する数量を、図や言葉、式に表し、変数に着目して「まとめて考える」という考え方で、問題を解くことができる。(記録分析:ノート)

◆十分満足 (A)

【考】増減する数量を、図や言葉、式に表し、増減の場合と比較し、変数に着目して「まとめて考える」という考え方で、問題を解き、言葉で説明

○ 問題解決が困難な児童や立式だけで終わっている児童には、ヒントカードを使って数図ブロックを操作させたり、ヒントカードを基にノートに図をかいたりするよう助言するとともに個別指導をする。

○ ペアの交流時間を設け、ノートを見せながら考えを説明させるようにする。

○ 全体の発表では、実物投影機を使って、児童に①と②を説明させる。

○ 前問題の数値を変えた問題を、「順に計算する方法」と「まとめて考える方法」で解き、まとめて考えて解く方法のよさを確かめさせる。

○ 交流活動で順に計算する方法とまとめて考える方法を比較し、どちらが「速く・簡単に・正確に」できるかを考えさせる。

○ 交流活動を通して、まとめて考えて解く方法のよさ(㊥速く、㊦簡単に、㊧正確に)に気付かせるようにする。

◆おおむね満足 (B)

【関】変数に着目して、「まとめて考える」という考え方のよさに気づき、説明することができる。(記録分析:発言)

( \* 別紙5 )

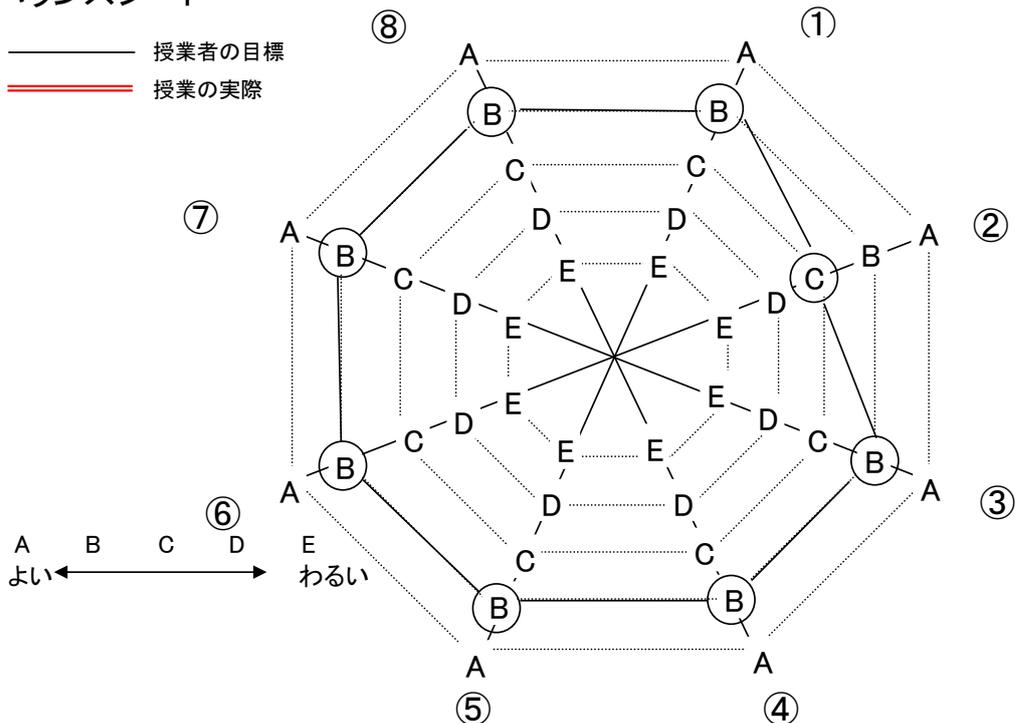
### 授業改善シート

授業日	24年	10月	4日	5校時	教科等名	算数科
記入者	所属	学校	職名	氏名		

参観ポイント		コメント記入欄
<b>授業全般</b>		
①	教師は一人一人の児童を十分理解し、表情豊かに授業をしている。	
②	発達の段階に応じた望ましい学習規律が定着している。	
③	ねらいに沿って、児童の学習意欲を喚起する教材教具・学習環境が準備・整備されている。	
④	「めあて」と「ふり返し」があり、構造的でわかりやすい板書になっている。	
⑤	発問は意図が明確で、思考を促すものになっている。	
⑥	児童自らが考えたり、説明したりする主体的な活動場面がある。	
<b>主となる言語活動(関連)</b>		
⑦	式や図(矢印図など)を用いて説明する。	
<b>交流活動</b>		
⑧	ペアで、考えを説明したり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えの同じところと違うところを見つける。	
<b>自由設定欄</b>		
<b>感想・意見等記入欄</b>		

### バランスシート

——— 授業者の目標  
 ——— 授業の実際



## 第3学年1組 社会科学習指導案

指導者 濱田 明美

### 1. 単元名 北九州市のまちのようす

### 2. 単元設定の理由

#### ○ 児童の実態

本学級の児童は、これまでに校区や八幡のまちのようすについて学習してきた。まちの様子は場所によって違いがあることは理解しているが、地理的見方や考え方、表現の仕方に関する個人差が大きく、「土地の様子をどのように読み取るのか。読み取ったものをどのように表現するのか。」と具体的に問いかけるなどの個別指導を必要とする児童が数名いる。

また、書き表す内容を収集し、整理できなかつたり、文章の構成の仕方を習得していなかつたりするなど何をどう書いてよいかわからない児童も前述の児童と重なる。

この単元を通して、児童が土地の様子や使われ方などに違いがあることを地形的な条件や社会的な条件と結び付けて考えられるようにしたい。さらに、地図記号、方位や土地利用図や地形、交通など地図から読み取った情報を自分の経験と結び付け、その場所の様子をイメージし、自分の言葉で表現できる児童の育成を目指したい。

#### ○ 本単元の意義

北九州市周辺は、海や山、川など豊かな自然も多く残り、土地の高低も比較的とらえやすく、地形的に特徴がある地域と言える。また、各区に商業地もあり、広範囲に住宅地が広がっている。さらに、海沿いや洞海湾沿いに工業地域も点在するなど土地利用がとらえやすく、本単元の事例地として適していると言える。この事例地をもとに、位置関係を考えながら地図に着色したり、北九州市の土地の様子や土地の使われ方について気付いたことを話し合ったりすることで、より深く北九州市の土地の様子や使われ方をとらえることができる。また、地域の人々のくらしが、自然環境や社会環境と深く関わりあっていることをとらえさせることや、北九州市のよさを考える活動を通して、地域社会の一員として自覚をもたせることができるとともに、地域への誇りや愛情を育てることができる大変意義深い単元である。

#### ○ 指導に当たって

第一次では、北九州市観光課安徳さんをGTに迎え、「北九州市の観光案内パンフレットづくりをお願いしたい。」と依頼していただくことで、児童が相手意識や目的意識をもてるようにする。

第二次では、前単元「八幡のまちのようす」の学習を想起させ、どんなことを調べたらよいか視点を明確にして第三次の調べ活動への見通しをもたせるようにする。

第三次では、調べる内容ごとにグループをつくり、地図に着色しながら、土地の様子や土地の使われ方がとらえられるようにする。また、写真やインターネット・パンフレットなどの資料と着色した地図をもとに、各グループごと調べた事実を発表させる。さらに、「なぜ、港のまわりに工場が多いのか。」などの疑問を大切に、みんなで考えあう場面をつくるようにする。

第四次では、土地の様子や土地利用を着色したり、学んだ事実を書きこんだりしている地図をもとに、北九州市全体の特色を話し合う。その際、既習の八幡のまちと市全体の地形や土地利用を比較させ、共通点や相違点を考えさせることにより、市全体の特色をとらえられるようにする。

第五次では、調べたことをもとに、市の案内パンフレットを作るようにする。ここでは、おすすめのコースや案内文を考え、ワークシートに書いたり、小グループで互いの案内文を検討し、修正したり、書き加えたりして「観光案内パンフレット」が完成できるようにする。

#### <言語活動の充実を図るための手だて>

一つ目は、学習の導入で、「市の観光案内パンフレットを作り、観光課の方に役立てていただ

う」と設定することで、学習の目的意識や表現内容の相手意識が明確になるようにする。さらに、パンフレットの中に設けた「おすすめコース」を紹介しあう活動を設定することで、これまで学習した内容や情報を再構成して自分の言葉で表現する能力を高めていく。

二つ目は、地理的な見方・考え方を示した文例（○○に沿って、△△が集まっているなど）を掲示し、学習場面で常にその文例を活用させながら、地理的な表現の仕方を習得できるようにする。

三つ目は、一枚ポートフォリオに一時間毎の学習の振り返り（わかったこと・この学習で一番大事なことなど）を記入させていく。そうすることで、学習で得られた情報を各時間ごとに収めながら、学習で得た知識の定着と理解の促進を図っていく。さらに、自己の学びの変容を自覚できたりするようにする。

これらの学習で習得した能力を、他の単元や他教科でも応用、転用できるようにしたい。

### <交流活動の具体的な場面や方法>

調べる活動や「市のおすすめコース」を書く場面で、小グループでの学習の場を意図的に設定し、自分なりの考えや思いを全員が発言する機会をもてるようにする。これらの学習形態で「話す」「聞く」「書く」の活動を連続させ、一人あたりの「話す量・聞く量・書く量」が倍増できるようにしたい。

## 3. 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	○ 北九州市の土地の様子や土地の使われ方に関心をもち、それらを意欲的に調べ、それらの特色やよさを考えようとする。
社会的な 思考・判断・表現	○ 北九州市の土地の様子や土地の使われ方から学習問題を見出して追究し、北九州市の様子や場所によって違いがあることについて考えたことを「観光案内パンフレット」やワークシート、ノートなどで相手にわかるように表現することができる。
観察・資料活用の技能	○ 北九州市の土地の様子や土地の使われ方を社会見学で観察したり、パンフレットや写真などの資料を活用したりして必要な情報を集め、読みとったりまとめたりすることができる。
社会的事象についての 知識・理解	○ 北九州市の土地の様子や土地の使われ方は場所によって違いがあることや地図記号や方位の意味、活用の仕方を理解する。

## 4. 単元の学習計画（総時数 11時間）

学 習 活 動	○ 指導・支援上の留意点 ○ 言語活動の充実を図るための手だて
1 北九州市観光課安徳さんの依頼をもとに、学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">学 習 問 題</div> 北九州市の土地の様子や使われ方は、場所によってどのようなちがいがあのだろうか。	○ 児童が作成するパンフレットの概要を知らせ、相手を念頭に置いたパンフレットづくりであることを理解させる。
2 北九州市の様子を調べる計画を立てる。	○ 調べたい内容ごとにグループを作り、どのようにして調べるか話し合っ決めてさせるようにする。
3 北九州市の土地の様子や土地利用について調べる。⑥ (1) 北九州市内を見学する。 (2) 各グループごとに土地の様子や土地利用について調べ、白地図にまとめる。	○ 前単元で学習した土地の傾向、高低、方角やそれらの関連における表現の仕方（●●の方角に～が集まっている。等）

<p>(3) 工場の集まっているところグループの発表を聞き、工場が海沿いに多いわけを話し合う。</p> <p>(4) 住宅や商店が集まっているグループの発表を聞き、それぞれの土地利用について話し合う。</p> <p>(5) 田や畑、森林が多いところグループの発表を聞き、自然をどういかしているか話し合う。</p> <p>(6) 公共施設や古くから残る建造物グループの発表を聞き、その働きについて話し合う。</p> <p>4 できた地図をもとに、北九州市の特色ある地形や土地利用の様子について話し合う。 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地の様子や土地利用を着色したり、学んだ事実を書きこんだりしている地図をもとに、北九州市全体の特色を話し合う。</li> </ul> <p>5 調べたことをもとに、市の観光案内パンフレットを作る。 ②</p> <p>(1) おすすめのコースや案内文を考え、ワークシートに書く</p> <p style="padding-left: 20px;">《予想される「おすすめのコース」》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然大好きコース</li> <li>・ 歴史コース</li> <li>・ おいしいものコース など</li> </ul> <p>(2) 小グループで互いの案内文を検討し、修正したり、書き加えたりして清書をする。 <b>(本時)</b></p>	<p>を想起させ、それらの表現が活用できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べて分かったことを明確にするために、グループごとに地図に絵や写真を活用して地理的な見方・考え方を示したキーワードを使いながらまとめさせる。</li> <li>○ 調べたことを発表する場面では、単に事実を羅列させるだけでなく、「なぜ、港のまわりに工場が多いのか。」などの疑問を大切にし、みんなで考えあう場面をつくるようにする。</li> <li>○ 学習して分かった内容を「一枚ポートフォリオ」に記入させる。その際、「○○ということが分かった。なぜなら▲▲だからだ。」と理由付けをさせることにより、児童の思考力や表現力を高める。</li> <li>○ 八幡のまちと市全体の地形や土地利用の特色を比較させ、共通点や相違点を自分の言葉で表現できるようにする。</li> <li>○ 地形や土地利用の様子で掴んだ事実と自分の考えを区別して記述するようにながす。</li> <li>○ 自分の興味・関心に基づく「おすすめのコース」にネーミングをし、案内したい場所3ヶ所を選ばせる。</li> <li>○ 学習内容を再構築するために、案内したい場所の土地の様子、順序を表す言葉「まず・次に・そして」や「区の名前」「建物の名前」「方位」などを入れ、案内文を書くように指導する。</li> <li>○ 自分のこだわりや思いが反映しているコース名について「なぜ、このコースを紹介しようと思ったのか。」を相手に具体的に説明するように指導する。</li> <li>○ よりよい案内文になるように小グループで相互評価を行い、「わかりやすいところ」(ピンクの付箋紙)「わかりにくく修正したほうがよいところ」(ブルーの付箋紙)などを書き込ませ、意見交換できるようにする。</li> </ul>
---	--

5. 本時の展開 (第5次 第2時) 平成24年10月4日(木) 5校時 3年1組教室

○ 主眼

北九州市のおすすめコースや案内文を書く活動を通して、八方位、区の名前を入れたり、土地の様子や土地の使われ方と関連させたりして、市の特徴を相手にわかりやすく表現することができるようにする。

- 準備 掲示用地図・児童が書いたおすすめコースの案内文・ヒントカード・八方位が書かれたTPシート
- 展開

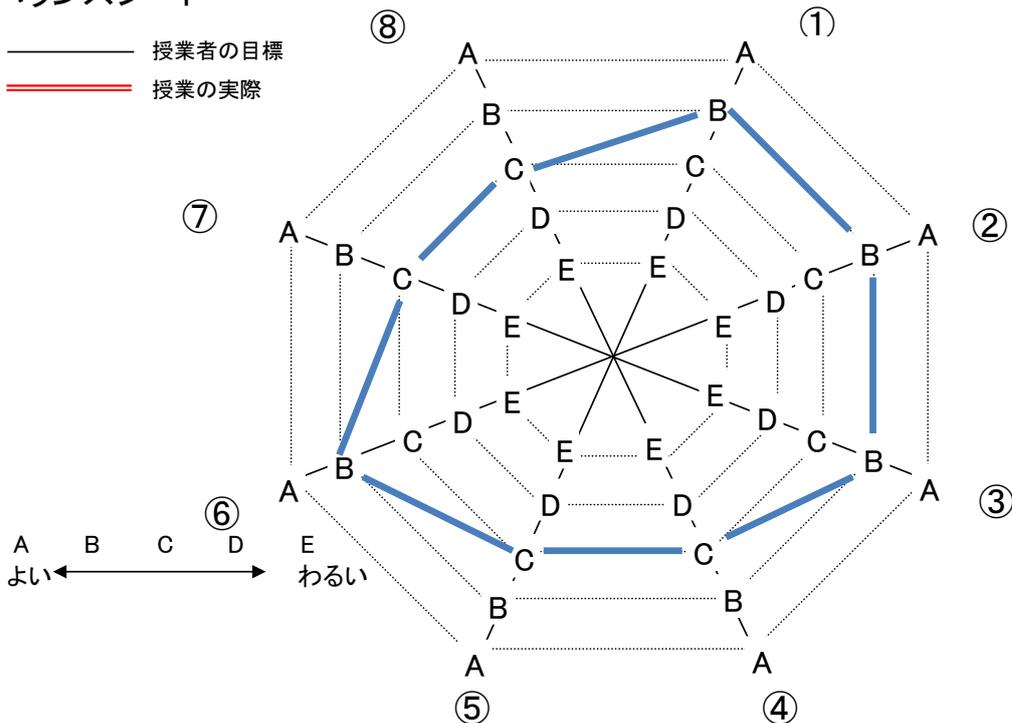
主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 ◆ 評価規準（判断基準）及び評価方法
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>北九州市のおすすめコースの案内文を見直し、出来上がったコースをしょうかいしあおう。</p> </div> <p>2 小グループで互いの案内文にアドバイスをしながら修正・加筆部分をつかみ、清書をする。</p> <p>(1) アドバイスする視点を話し合い、小グループで案内文をアドバイスしあう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《予想される児童の反応》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;"> <p>自然いっぱいコース</p> </div> <p>・まず、小倉北区の藍島に行くと、海が一面に広がっています。そこでは、魚やわかめとりが見られます。次に、海をわたってそこから西に行くと、若松区の有毛のあたりにキャベツ畑が広がっています。キャベツはとってもおいしいですよ。そして、そこからもっと北に行くと、グリーンパークがあり、そこではカンガルーなどとふれあったりすることもできますよ。</p> </div> <p>(2) 案内文を清書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時は前時に書いた北九州市のおすすめコースの案内文をさらによりよいものにするための学習であることを確認する。</li> <li>○ 児童の書いたおすすめコース案内文を使って「どこが不十分か」「何を書くとき北九州市のよさが伝わるか」など視点を与え、案内文を修正する必要感をもたせる。</li> <li>○ 自分のこだわりや思いが反映しているコース名について「なぜ、このコースを紹介しようと思ったのか。」を相手に具体的に説明するように指導する。</li> <li>○ よりよい案内文になるように小グループで相互評価を行い、「わかりやすいところ」（ピンクの付箋紙）「わかりにくく修正したほうがよいところ」（ブルーの付箋紙）などを書き込ませ、意見交換できるようにする。</li> <li>○ 小グループで案内文を吟味するという言語活動が、事実即して正しい思考や表現になるように、児童の選んだ3ヶ所の写真を活用させる。</li> <li>○ つまづきが予想される児童には、案内文の雛型が記入されたヒントカードや八方位を印刷したTPシートを与え、無理なく記入できるようにする。</li> <li>○ 案内文を書きなおすとき、友達からアドバイスされたことをそのまま直すのではなく、自分でもう一度考えるように助言する。</li> <li>○ どんな土地の様子のところを通るのか記入できる児童には取り組ませるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆おおむね満足（B）</p> <p>【表・思】 方位・区や施設の名前を入れたり、自分が選んだ3つの場所の土地の様子に目を向けていたりして相手にわかりやすく書いている。 (ワークシートの分析)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆十分満足（A）</p> <p>【表・思】 方位・区や施設の名前を入れたり、自分が選んだ3つの場所の土地の様子やコース途中の土地の様子に目を向けていたりして相手にわかりやすく書いている。 (ワークシートの分析)</p> </div>

<p>(3) グループ内で地図上のコースを示しながら、互いに案内文を発表する。</p> <p>3 自分の考えたコースを発表する。</p> <p>4. 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ ペアを組みコースを指さしでなぞりながら、互いに発表しあうようにする。また、上手にまとめているところを見付けられるようにする。</p> <p>○ 児童が書いたコースを取り上げ、全員でそのコースを指でたどりながら、「自分に行ってみたいと思ったか。思った理由は何か。」「観光に来た人に対するパンフレットになっているか」など観点を与え、そのよさに気付かせる。</p> <p>○ 一枚ポートフォリオに、自分の作ったおすすめのコースについての思いや友達のコースのよさなどについて記述させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆おおむね満足 (B)</p> <p>【関・意・態】パンフレットづくりを通して、北九州市の土地の様子やよさをとらえている。 (一枚ポートフォリオの分析)</p> </div>
--	---

(* 別紙5)		授業改善シート					
授業日	24年	10月	4日	5校時	教科等名	社会科	
記入者	所属	学校	職名	氏名			
参観ポイント				コメント記入欄			
<b>授業全般</b>							
①	教師は一人一人の児童を十分理解し、表情豊かに授業をしている。						
②	発達の段階に応じた望ましい学習規律が定着している。						
③	ねらいに沿って、児童の学習意欲を喚起する教材教具・学習環境が準備・整備されている。						
④	「めあて」と「ふり返り」があり、構造的でわかりやすい板書になっている。						
⑤	発問は意図が明確で、思考を促すものになっている。						
⑥	児童自らが考えたり、説明したりする主体的な活動場面がある。						
<b>主となる言語活動(関連)</b>							
⑦	地理的な見方・考え方を相手にわかりやすく表現している。						
<b>交流活動</b>							
⑧	小グループで「おすすめのコース案内文」を検討・修正している。						
<b>自由設定欄</b>							
<b>感想・意見等記入欄</b>							

**バランスシート**

—— 授業者の目標  
 == 授業の実際



## 第4学年3組 算数科学習指導案

指導者 青野 聖子

### 1. 単元名 面積

### 2. 単元設定の理由

#### ○ 児童の実態

本学級の児童は、長さやかさ、重さといった量を測定する際に、直接比較・間接比較・任意単位による数値化という過程を経て、最終的に普遍単位を用いて数値化することを学習してきている。事前に行った「広さ」に関するプレテストでは、直接比較の問題が数名できていなかった。また、まず目の数がいくつ分かで比べる(任意単位による比較)問題も感覚的・直感的な見方をしており、1割程度が不正解であった。学力標準検査CRTの結果では、量と測定の問題において、全国平均を下回っていた。本単元では、「面積」の意味とその測定の方法や意味を理解させ、量の大きさについての感覚を豊かにさせたい。

#### ○ 本単元の意義

本単元では、既習の「長さ」「かさ」「重さ」と同様に「広さ」についても普遍単位のいくつ分かで数値化できるよさに気づかせ、面積の概念や長方形や正方形の面積の求め方を理解することをねらいとしている。この学習が、5学年における三角形と平行四辺形、円などの基本的な平面図形の面積を求める学習、さらに6学年における「体積」の学習へとつながっていく。

#### ○ 指導に当たって

##### <言語活動の充実を図るための手だて>

考えを説明する際には、「まず」「次に」「最後に」というような考えの順序を示す言葉を取り上げ、全体で式と図を関連させながら説明させるようにする。そのように順序立てて説明することで、聞いている友達に分かりやすく説明できるよう考えたり、自分の考えを整理して話したりすることにもつながると考える。

##### <交流活動の具体的な場面や方法>

自力解決の場面では、言葉・数・式・図を用いて説明させ、自分の考えを表現できるようにする。また、自力解決の後にグループでの交流場面を設ける。その際、自分の考えだけでなく、どのように考えたのかを友達に説明したり友達の考えを聞いたりして交流を深めるようにする。また、発表場面では、友達の考えと同じところと違うところを見つけさせるようにする。そうすることで、自分の考えを整理して理解を深めることができるかと考える。また、解決できた児童が友達とやりとりすることを通して、全体の場で自信をもって「説明する」という言語活動を行うことができるようにしたい。これらの方法は、児童の気付きや思考をうながすだけでなく、一人で考える段階ではなかなか解決に至らない児童が理解へと近づける手助けとなると考える。

### 3. 単元の目標

算数への 関心・意欲・態度	○ 身の回りのものの広さに関心をもち、進んで広さを比べたり、面積を求めたりしようとする。 ○ $1\text{ cm}^2$ の正方形に着目して、長方形や正方形の面積の公式を見付けようとする。
数学的な考え方	○ 単位正方形の個数に着目して、長方形や正方形の面積の公式を考えることができる。
数量や図形に ついての技能	○ 長方形や正方形の面積の公式を用いて面積を求めることができる。

数量や図形についての知識・理解	<input type="radio"/> 面積の単位と測定について理解する。 <input type="radio"/> 長方形や正方形の面積の求め方を知り，面積の公式を理解する。
-----------------	--

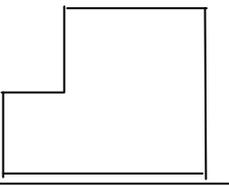
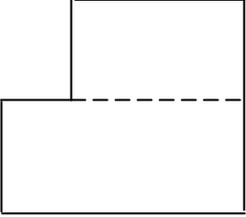
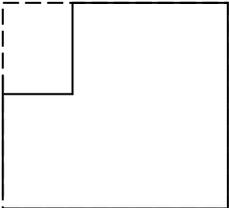
4. 単元の学習計画（総時数 9 時間）

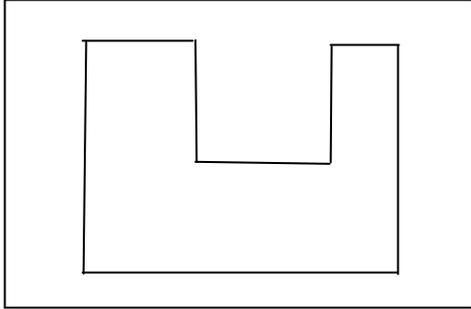
学 習 活 動	<input type="radio"/> 指導・支援上の留意点 <input type="radio"/> 言語活動の充実を図るための手だて
1 長方形や正方形の花だんの形を写し取り，広さ比べをすることから，本単元の学習のめあてをつかむ。 ①	<input type="radio"/> 写し取った紙を重ねたり切ったりする直接比較の活動を通して，基準となる広さを決め，そのいくつかで表す必要性に気付くようにする。 <input type="radio"/> 直接比較の活動を通して，広さと長さは異なるものであることを理解できるようにする。
2 面積の意味を知る。 ⑤ (1) $c \text{ m}^2$ の単位を知る。 (2) 面積の公式を知り，長方形や正方形の面積を求める。 (3) $\text{m}^2$ の単位を知る。 (4) $1 \text{ c m}^2$ と $1 \text{ m}^2$ の関係を知る。 (5) $1 \text{ m}^2$ の面積をつくり量感をもつ。	<input type="radio"/> 面積の比較を通して，面積の単位 $c \text{ m}^2$ を知り，そのいくつか分かで面積を求めさせる。 <input type="radio"/> 長方形や正方形の中に $1 \text{ c m}^2$ の正方形を敷き詰める活動を繰り返す過程で，面積を計算で求める方法を導き，公式の意味を理解させる。 <input type="radio"/> 公式を使って，正方形や長方形の面積を求めることができるようにする。 <input type="radio"/> 大きな面積の単位の必要性を感じ取らせ， $\text{m}^2$ の単位を知らせる。 <input type="radio"/> $1 \text{ c m}^2$ と $1 \text{ m}^2$ の単位間の関係を理解するとともに，縦・横の長さの単位をそろえて面積を求めることができるようにする。 <input type="radio"/> 新聞紙などで，面積が $1 \text{ m}^2$ になる正方形を作ったり，身の回りから $1 \text{ m}^2$ に近い広さのものを探したりする活動を通して，大きな面積についての量感をもてるようにする。
3 凸凹の図形の面積を工夫して求める。 ① <b>(本時)</b>	<input type="radio"/> いくつかの正方形や長方形に分割したり，ない部分を補って考えたりする方法を言葉で説明し合い，互いの相異点についてまとめることができるようにする。
4 大きな面積を求める。 ② (1) $k \text{ m}^2$ の単位を知る。 (2) a, ha の単位を知る。	<input type="radio"/> 広い土地の面積を求める問題を提示し，さらに大きな単位の必要性を感じ取らせ， $k \text{ m}^2$ の単位を知らせる。 <input type="radio"/> 土地や田畑の広さなどのより広いものを表す場合に用いる面積の単位である a, ha を知らせる。
5 たしかめ道場をする。	

5. 本時の展開（第3次 第1時） 平成24年10月4日（木） 5校時 4年3組教室

- 主眼  
複合図形に補助線を引き，長方形や正方形に合成・分解する活動を通して，既習の公式を使って面積を求めることができるようにする。
- 準備 教師：複合図形の図（L字型・凹型）  
児童：複合図形の図が書いてあるワークシート ヒントカード

○ 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 ◆ 評価規準（判断基準）及び評価方法
<p>1 問題を知り、めあてをつかむ。</p> <div data-bbox="217 315 730 501" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習問題】 この図形の面積を求めよう。</p>  </div> <p>2 自力解決後、グループになり自分のやり方を話し合うことによって、見通しをもたせる。</p>	<p>○ 複合図形を提示し、これまで学習した形との違いに気付かせ、見通しをもたせる。</p> <p>○ 長方形の面積の公式に触れ、これまでの学習を想起させる。</p> <p>○ 長方形の複合図形であることを認識し、見通しをもって学習に取り組ませるために、それぞれの考え方を友達に伝えるよう声かけをする。</p>
<p>めあて 長方形の面積の公式を使って、面積を求めよう。</p>	
<p>3 自分なりに工夫して長方形をつくり、面積を求める。</p> <div data-bbox="188 846 826 1144" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア</p>  <p><math>3 \times 2 = 6</math>  <math>6 \times 3 = 18</math>  <math>6 + 18 = 24</math>          (縦に線を入れた。)          答え <math>24 \text{ c m}^2</math></p> </div> <div data-bbox="188 1151 820 1449" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>イ</p>  <p><math>3 \times 5 = 15</math>  <math>3 \times 2 = 6</math>  <math>15 + 6 = 21</math>          (横に線を入れた。)          答え <math>21 \text{ c m}^2</math></p> </div>	<p>○ 求積に必要な長さを測定するように伝える。</p> <p>○ 自力解決が困難な児童には、補助線を入れているヒントカードを渡し、長方形の面積を求めるには、どの辺の長さが必要かを考えさせる。</p> <p>○ 解決している児童には、他のやり方ではできないか考えさせるようにする。</p> <div data-bbox="890 1070 1433 1462" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ウ</p>  <p><math>6 \times 7 = 42</math>  <math>3 \times 2 = 6</math>  <math>42 - 6 = 36</math></p> <p>(全体の長方形から実際にはない面積を引いた。) 答え <math>36 \text{ c m}^2</math></p> </div>
<p>4 面積を求める方法を発表し、話し合う。</p> <p>5 適応問題を解き、本時の学習を確かめる。</p>	<p>○ どの式がどの長方形の面積を求めているかを図と対応しながら説明させる。</p> <p>○ どの辺の長さが分かれば面積が求められるのか、気付くようにする。</p> <p>○ それぞれの考え方を仲間分けし、共通点や相違点を見つけられるようにする。          ア、イ→分けて、合わせる考え方          ウ→つけたして、ひく考え方</p> <p>○ 適応問題をするすることで、定着を図り自信をもたせる。</p> <p>○ 図形によって、分割と補完のどちらの考えがよいかを話し合わせる。</p>



6 学習のまとめをする。

**まとめ** 長方形や正方形を見つけて公式を使えば、いろいろな形の面積を求めることができる。

7 本時の振り返りをし、次時の学習について知る。

◆ おおむね満足 (B)

【技】 分割や補完等の考えで求積することができている。(発言・記録分析)

◆ 十分満足 (A)

【技】 分割や補完と、どちらの考え方がより簡単にできるかを判断することができている。(発言・記録分析)

○ 複雑な図形でも、補助線を引いて長方形や正方形に形を変えると、面積の公式を使って求めることができることをまとめる。

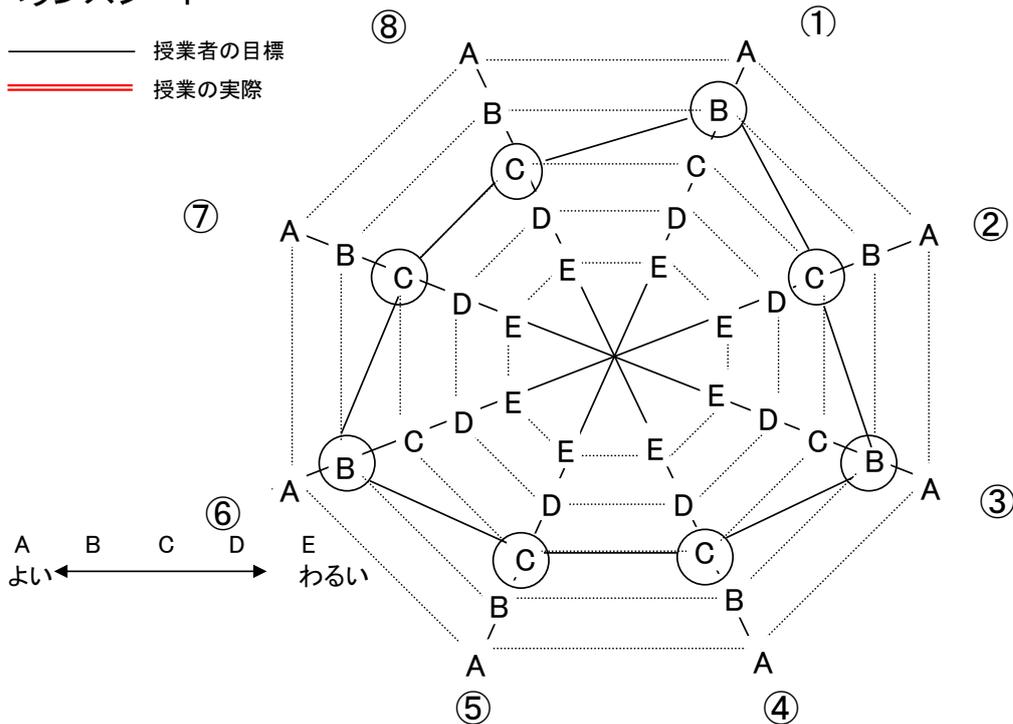
○ 本時の学習で分かったことや参考になった友達の考えなどを中心に話し合うことを通して、学習内容の理解を深めるとともに、次時への学習意欲を高めるようにする。

(* 別紙5)		授業改善シート							
授業日	24年	10月	4日	5校時	教科等名	算数科			
記入者	所属	学校		職名	氏名				

参観ポイント					コメント記入欄			
<b>授業全般</b>								
①	教師は一人一人の児童を十分理解し、表情豊かに授業をしている。							
②	発達の段階に応じた望ましい学習規律が定着している。							
③	ねらいに沿って、児童の学習意欲を喚起する教材教具・学習環境が準備・整備されている。							
④	「めあて」と「ふり返り」があり、構造的でわかりやすい板書になっている。							
⑤	発問は意図が明確で、思考を促すものになっている。							
⑥	児童自らが考えたり、説明したりする主体的な活動場面がある。							
<b>主となる言語活動(関連)</b>								
⑦	式と図を用いて説明する。							
<b>交流活動</b>								
⑧	グループで、考えを説明したり友達の考えを聞いたりして、考えの同じところと違うところを見つける。							
<b>感想・意見等記入欄</b>								

**バランスシート**

—— 授業者の目標  
 == 授業の実際



## 第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 倉富 尚

1. 単元名 自分の考えをまとめて、討論しよう！  
—限りのある資源をよりよく使うためにできること—  
教材名 「豊かな言葉の使い手になるためには」「インターネットを使って調べる」

### 2. 単元設定の理由

#### ○ 児童の実態

本学級の児童は、第4学年「読書生活について考えよう」「仕事リーフレットを作ろう」「ことわざブックを作ろう」の学習を通して、関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる力を身に付けてきた。

しかし、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する力は身に付いていない。

話す・聞く能力については、5月「きいて、きいて、きいてみよう」の単元では、インタビューをするという言語活動を通して、話す話題について下調べをして準備をする力や、話し手の意図をとらえながら聞く力を身に付けた。また、話す力・聞く力を伸ばすためのゲームを毎日続けていることで、受け取った情報を即時に判断して、話したり聞いたりする力も少しずつ高まってきている。

話し合う能力については、第4学年「よりよい学級会をしよう」の単元で学んだことを生かして、学級会や各教科における話し合い活動の経験を重ねることで、互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う力は身に付いてきている。

しかし、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う力は身に付いていない。

また、児童は1学期の社会科見学で九州エネルギー館を見学したことを通して、エネルギーを作り出す発電方法や資源の種類、資源を節約する生活の仕方などに対する関心が深まってきている。

#### ○ 本単元の意義

本単元のねらいは、「調べたことやまとめたことについて討論をする」という言語活動を通して、「考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報に関係付ける力」と「互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う力」を育てることである。

また、「自分の課題について調べ、意見を記述した文章を書く」という言語活動を通して、「考えたことから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する力」と「自分の考えが伝わるように引用して書く力」を育てることもねらっている。

児童が自分の考えをまとめて、討論するための題材として、「限りのある資源をよりよく使うためにできること」を取り上げるようにする。児童は、社会科で学んだことや、節電・リサイクルに取り組んだ経験を生かして、「無駄な電気を使わないようにする」「緑のカーテンや打ち水など、電気を使わない方法に取り組む」「自家用車に乗る機会を減らす」「エコバッグを使う」などの考えをもつことができるであろう。

#### ○ 指導に当たって

##### <言語活動の充実を図るための手だて>

第1次で単元の学習の見通しをもつ段階では、九州エネルギー館を見学した感想や、節電・リサイクルに取り組んだ経験を交流する活動を通して、「限りのある資源をよりよく使うためにできることを見つけよう」とする学習内容に対する意欲をもつことができるようにする。

また、これまでの国語科で学んだことを振り返り、「調べたことやまとめたことについて討論しよう」とする学習方法（言語活動）に対する意欲をもつことができるようにする。

第2次では、「自分の課題について調べ、意見を記述した文章を書く」という言語活動を充実させるために、本やインターネット、インタビューなどの方法を使って調べた情報を活用しながら、自分が取り組むことができる方法を見つけることができるようにする。

第3次では、「調べたことやまとめたことについて討論をする」という言語活動を充実させるた

めに、討論する相手を書きまとめた文章を事前に読むことで、より丁寧に討論の準備をすることができるようにする。さらに、グループ討論を2回行い、1回目の後に反省をもとにしてより計画的に話し合いの準備をすることができるようにする。

本単元で身に付けた「調べたことやまとめたことについて討論をする」という能力は、国語科では、第6学年「学級討論会をしよう」で活用することができる。また、学級会での話し合いや各教科での話し合いに活用することもできる。

「自分の課題について調べ、意見を記述した文章を書く」という能力は、国語科「グラフや表を引用して書こう」の単元や第6学年の国語科の学習で活用することができる。また、社会科や総合的な学習の時間にも活用することができる。

### <交流活動の具体的な場面や方法>

自分が考えたことをペアや少人数のグループで交流する活動を単元の中で随時設定する。自分の考えを友達に説明することを通して、自分の中での漠然とした思考が整理され、より明確になることをねらう。また、友達の考えを聞くことで、自分の見方や考え方が広がったり、深まったりすることをねらう。

### 3. 単元の目標

国語への 関心・意欲・態度	○ 考えたことや伝えたいことをもとに調べたことをまとめて書いたり、進んで討論に参加したりしようとする。
話す・聞く能力	◎ 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けることができる。 ◎ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。
書く能力	○ 考えたことから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができる。 ○ 自分の考えが伝わるように、必要な部分を引用して書くことができる。
言語についての 知識・理解・技能	○ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。

### 4. 単元の学習計画（総時数 14時間）

学 習 活 動	○ 指導・支援上の留意点 ○ 言語活動の充実を図るための手だて
1 単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てるとともに、学習の見通しをもつ。 ②  (1) 「限りのある資源をよりよく使うためにできること」について交流し、単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">           ☆ 討論の目的（討論するとよいこと）            ・自分では気付かないものの見方や考え方を知ることができる。            ・他の人の考え方を知ると、自分の考えも深まる。         </div> ○ 九州エネルギー館を見学した感想や、節電・リサイクルに取り組んだ経験を交流する活動を通して、「限りのある資源をよりよく使うためにできることを見つけよう」とする学習内容に対する意欲をもつことができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           &lt;学習課題&gt;            「限りのある資源をよりよく使うためにできること」について、調べたことをまとめて、討論をしよう。         </div>	
(2) 自分が調べたいことについて、ウェビング・マップに書き表して整理し、自分の課題を決める。	○ 前時に児童が出した意見を「エネルギーを発電する方法」、「資源の種類」、「節電やリサイクル」などの観点に整理したものを参考にしながら、ウェビング・マップに書き表すことができるようにする。

2 自分の課題について調べ、調べたことを文章に書きまとめる。⑤

(1) インターネットを使う調べ方を確かめる。

(2)(3) 本やインターネット、インタビューなどの方法を使って調べる。

(4) 文章の構成を決める。

(5) 文章を書く。

3 調べてまとめたことをもとに、グループ討論をする。⑥

(1) グループ討論の進め方を確かめる。

(2) グループ討論をするための準備をする。(本時)

(3) 1回目の討論をする。

○ p 97「インターネットを使って調べる」を読み、実際にインターネットで検索する活動を通して、よりよい検索の仕方や情報の信憑性の吟味について、理解することができるようにする。

○ 調べたことを「自分の考えを書くカード」と「考えの根拠となる資料カード」に整理することで、文章を書く際の構成に生かすことができるようにする。

○ 調べたことを整理したカードを使って、簡単な三部構成の意見文の構成を考えることができるようにする。

#### ☆ 意見文の構成

初め…自分の考え

中…自分の考えの根拠となる具体的な資料や体験

○ CDを聞きながら、討論の進め方や司会の役割、聞くグループの役割を理解することができるようにする。

○ 1回目の討論をする相手(3人)が書いた意見文を事前に読み、加線をしたり、付箋にメモを書いたりすることで、自分の主張を明確にするとともに、友達への質問や意見、自分に対する質問や意見を想定することができるようにする。

○ 討論グループ4人、聞くグループ4人(司会1人)で15分間の討論をする。討論グループと聞くグループを交代し、再び15分間の討論をするようにする。

○ 「討論振り返りシート」を使って、討論の成果と課題を具体的に振り返り、2回目の討論に生かすことができるようにする。

#### ☆ 討論振り返りシートの内容

・司会はみんなの意見や質問をよく整理した。 ・自分の意見とその根拠をわかりやすく話した。

・友達の意見とその根拠を聞いて、理解することができた。 ・友達の意見に質問や反論ができた。

(4) 1回目の討論で気付いたことを生かして、2回目の討論の準備をする。

○ 1回目の討論でよかったところとうまくいかなかったところを出し合い、よりよく2回目の討論をしようとする意欲を高めることができるようにする。

○ p 98「話し合うために大切な言葉」を読んで、討論で大切にしたい言葉を使うことができるようにする。

(5) 2回目の討論をする。

○ 1回目の討論のときは、違う相手と討論をするようにする。

(6) 討論の振り返りをする。

○ 「討論振り返りシート」を使って、1回目の討論と比べてよくなったことを具体的に振り返ることができるようにし、今後もよりよい話し合いや討論をしようとする意欲をもつことができるようにする。

4 単元の学習を振り返り、「限りのある資源をよりよく使うためにできること」について、自分の考えをまとめる。①

○ 調べたことをまとめた意見文と討論で新たに気付いたことや考えたことを関連させて、「限りのある資源をよりよく使うためにできること」について、ノートに書きまとめることができるようにする。

5. 本時の展開 (第3次 第2時) 平成24年10月4日(木) 5校時 5年1組教室

○ 主眼

討論をする相手(3人)が書いた意見文を事前に読み、加線をしたり、付箋にメモを書いたりする。そして、友達と交流する活動を通して、自分の主張を明確にするとともに、友達への質問や意見、自分に対する質問や意見を想定することができるようにする。

○ 準備 討論をする相手が書きまとめた意見文、意見文のモデルや付箋の拡大掲示物、付箋

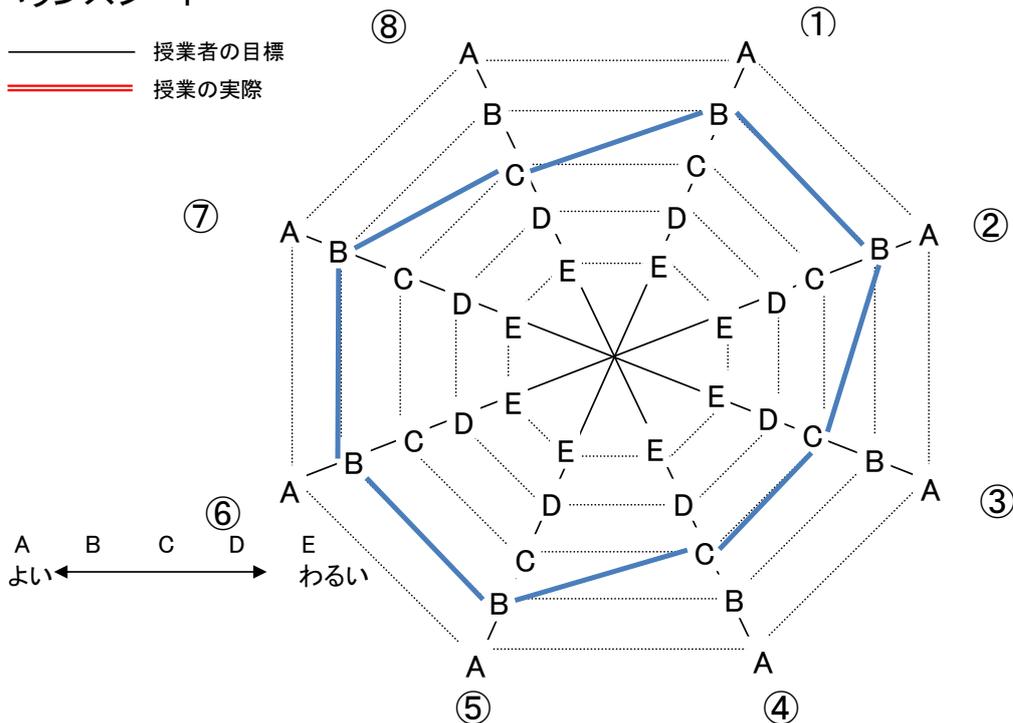
○ 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 ◆ 評価規準(判断基準)及び評価方法
1 前時の学習を振り返り、本時の学習のめあてをもつ。	○ 前時に討論の進め方や役割を確かめたことを想起し、討論をするために準備したいことを出し合う活動を通して、本時のめあてをつかむことができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>めあて</b></p> <p>討論をする相手の意見文を読んで、友達の意見を確かめ、質問や意見を準備しよう。</p> </div>	
2 本時の学習の進め方を確かめる。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">                         赤…友達の意見とその根拠                          青…友達への質問や意見                     </div>	○ 意見文のモデルを読んで、文章の構成や意見とその根拠について話し合う活動を通して、加線の仕方や付箋にメモをすることを確かめることができるようにする。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">                         自分が考えつかなかったおもしろい意見の友達はあるかな。自分と違う意見の友達には、質問をしたり、意見を言ったりしてみたいな。  </div>
3 討論をする相手が書いた意見文を読んで、友達の意見を確かめ、質問や意見を準備する。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">                         ☆ 意見文の構成                          「初め」…自分の考え                          「中」…自分の考えの根拠となる具体的な資料や体験                          「終わり」…これから自分                     </div>	○ 「意見文の構成」の掲示物を参考にして、「初め」の部分に意見、「中」の部分に根拠、「終わり」の部分に自分たちにできることが書かれていることをつかみながら読むことができるようにする。 ○ 赤の付箋が書けない児童に対しては、教師と一緒に加線をするので、友達の意見とその根拠を書くことができるようにする。 ○ 青の付箋が書けない児童に対しては、自分の考えと異なる意見を見つけさせ、詳しく知りたいことを書くことができるようにする。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">                         Aさんの節電の仕方はよいと思うけど、なぜその方法がよいと言えるのか、根拠があいまいだな。よし、青の付箋に質問を書こう。  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">                         B君は、1日に使う石油の量を詳しく調べている。私の指定袋を使う量を減らす方法に対して、具体的な量を質問されるかも。黄色の付箋に書こう  </div>
4 グループの友達と付箋にメモをしたことについて交流する。	○ 交流を通して、新たに気付いたことを付箋に書き加えたり、付箋に書いた内容を修正したりすることができるようにする。 ○ 児童が付箋に書いたことを板書に整理していき、付箋に書く際の参考にするようにする。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆おおむね満足 (B)</p> <p>友達の意見文を読み、赤の付箋に友達の意見とその根拠、青の付箋に友達への質問や意見を書いている。(記録分析)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>◆十分満足 (A)</p> <p>友達の意見文を読み、赤と青を書いており、さらに、黄色の付箋に自分に対する質問や意見を想定して書いている。(記録分析)</p> </div>	
5 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	○ 付箋に書いたことを出し合い、本時の学習の振り返りをノートに書くことで、次時によりよく討論をしようとする意欲を高めることができるようにする。

(* 別紙2)		授業改善シート					
授業日	24年	10月	4日	5校時	教科等名	国語	
記入者	所属	学校	職名		氏名		
参観ポイント				コメント記入欄			
<b>授業全般</b>							
①	教師は一人一人の児童を十分理解し、表情豊かに授業をしている。						
②	発達の段階に応じた望ましい学習規律が定着している。						
③	ねらいに沿って、児童の学習意欲を喚起する教材教具・学習環境が準備・整備されている。						
④	「めあて」と「ふり返り」があり、構造的でわかりやすい板書になっている。						
⑤	発問は意図が明確で、思考を促すものになっている。						
⑥	児童自らが考えたり、説明したりする主体的な活動場面がある。						
<b>主となる言語活動(関連)</b>							
⑦	児童が相手意識と目的意識をもって、よりよく討論するための準備をしようとしている。						
<b>交流活動</b>							
⑧	交流を通して、児童が自分の書いた付箋を見直そうとしている。						
<b>自由設定欄</b>							
<b>感想・意見等記入欄</b>							

**バランスシート**

—— 授業者の目標  
 —— 授業の実際



## 第6学年2組 社会科学習指導案

指導者 古田 和弘

### 1. 小単元名 新しい時代の幕あけ

### 2. 単元設定の理由

#### ○ 児童の実態

本学級の児童（男子22名，女子17名）の多くは，歴史学習が好きである。理由の一つとして，火おこしや大仏づくりといった体験活動や，「日本一大きな大仙古墳を校区にもってくるとどうなるか」という学習の中で，縮尺を合わせた大仙古墳を校区図に書き加えたものを見せ，その当時の人々の思いを想像したり，その大きさを実感したりする活動が，児童の知的好奇心をゆさぶったのではないかと考える。さらに，人物の立場に立って思いや願いを吹き出しで表現するなどの歴史新聞を製作することで，人物に焦点を当てた経験を積み重ねてきたことも理由として考えられる。

社会科の学習では，次時の学習で学ぶ人物や資料に視点を当てて調べてくる家庭学習を段階的に積み上げてきた。しかし，授業の様子を見ると，その時間のめあて・課題に対する予想を，根拠を明確にして立てることができない児童や，歴史的事象の関係を記述したり説明したりすることが苦手な児童も多い。これは，児童が調べてきた人物や資料の一つ一つについては理解しているものの，それらに関連付けて考えられなかったり，記述や説明の根拠となる資料を活用することができなかったり，自分の言葉として表現することを苦手にしていたりすることが考えられる。

本単元では，複数の資料や歴史的事象を関連させ，歴史的事象の裏付けとなる理由や因果関係を考えたり，自分の言葉で表現したりする力の定着を図っていく。

#### ○ 本単元の意義

本小単元は，小学校学習指導要領社会科第6学年の目標（1）（3）及び内容（1）のキ・クを受け，幕末から明治の初めにかけての黒船の来航，明治維新，文明開化などを具体的に調べることを通して，我が国が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れながら近代化を進めたことが分かるようにすることをねらいとしている。

まず，本単元では，ペリーの来航をきっかけとして，約260年間続いた江戸幕府が倒れ，政権が明治政府へと変わり，社会が急激に変化していく様子をとらえさせたい。また，明治政府が西洋諸国に追いつこうと欧米の制度や文化を取り入れて国のしくみを整えていったことで，人々の生活様式が変化・向上していく面と，地租改正や徴兵令などの政策によって人々の生活が圧迫されるという面の両面がある中での人々の願いや思いを関連付け，歴史的事象の意味を多面的に考えさせたい単元である。

#### ○ 指導に当たって

指導に当たっては，目標（3）の「調べたことや考えたことを表現する力を育てる」の具現化に向けて，ペリーの肖像画や黒船来航の錦絵などから江戸幕府や当時の人々への影響を考える学習，西郷隆盛，大久保利通，木戸孝允のエピソードや資料などをもとに明治政府の諸改革について調べる学習，『学問のすすめ』を手掛かりとして福沢諭吉が欧米から取り入れた新しい文化や考え方を調べる学習を行う。その学習の中で，我が国の歴史と政治に関する社会的事象を具体的に調べたり，地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり，調べたことを目的に応じた方法で表現

したりする活動を取り入れていこうと考えている。

### <言語活動の充実を図るための手だて>

社会科において、「言語活動の充実を図る」ことは、目標（3）の「調べたことや考えたことを表現する力を育てる」という表現力の育成に直結すると考える。特に、言語活動を以下の三つの力と結び付けて考えていくことで、社会科で付けたい表現する力が高まると考えた。

- |   |
|---|
| ① 学習問題に即して各種の資料を効果的に活用して調べる技能           |
| ② 社会的事象の意味をより広い視野から考える力                 |
| ③ 相手にも分かるように根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し、説明する力 |

これらの力を高めるための具体的な言語活動を以下のように考えた。

①については、資料から情報を読み取り、ノートなどにまとめる言語活動を行う。

②については、教師の資料提示や発問、児童同士の班や一斉での話し合いや討論により、視野の広がった自分の考えをノートなどにまとめる言語活動を行う。

③については、班や一斉での交流の時間と称し、資料等から読み取ったことや自分の考えを互いに伝え合う場や時間を設け、発表や話し合い、討論といった言語活動を行う。

本単元においてこれらの言語活動を行うに当たっては、以下のような手だてをとり、言語活動の充実を図っていきたいと考える。

調べたことをノートなどにまとめる際には、絵や図（地図）、グラフなども書くようにし、ノートを使って友達に発表することを意識しながら、まとめていくよう指導していく。特に、児童のノートの内容を教材提示装置を活用して発表させることで、友達のまとめ方のよい所を学び、児童がていねいに、見やすくて分かりやすいノートづくりを心がけるようになると考える。

討論や話し合いをする際には、まず自分の考えや立場をはっきりした上で討論に臨むようにする。その際、立場を決めかねたり、考えが思いつかない児童には、学習の振り返りができる掲示物を用意するなどし、児童の考えのヒントになるようにする。

### <交流活動の具体的な場面や方法>

言語活動の充実を図るための手だての一つとして、交流活動があげられる。その形式としては、ペアや班、一斉があり、それらは活動の内容や児童の学習の様子から適宜選ぶようにしている。本単元においても、毎時間交流活動を取り入れている。一人一人の意見や考えをしっかりと引き出したい時は、ペアや班での交流活動を行い、調べたことを発表したり、友達の発表を聞いたりする場合は、班や一斉という形での交流活動をとっている。このように交流の形式を変えることで、その充実を図っている。

## 3. 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	○ 黒船の来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などに関心をもち、それを意欲的に調べることを通して、新しい日本の国づくりに関心を深めようとする。
社会的な 思考・判断・表現	○ 廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたこと、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことなどを、世の中の出来事や人物の働き、人々の暮らしなどを通して考え、表現することができる。

観察・資料活用 の技能	○ 黒船の来航，明治維新，文明開化，大日本帝国憲法の発布，日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展などについて，各種の基本的資料を効果的に読み取ったりまとめたりすることができる。
社会的事象について の知識・理解	○ 廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたこと，我が国の国力が充実し国際地位が向上したことを理解する。

#### 4. 単元の学習計画（総時数 7 時間）

学 習 活 動	○ 指導・支援の留意点 ○ 言語活動の充実を図るための手だて
1 黒船の来航から開国に至るまでの日本の様子について話し合い，学習問題をつくる。 ・ペリー ・二つの不平等な条約 <b>（本時）</b>	○ 開国についての討論において，自分の立場を決めかねたり考えが思いつかない児童のために，これまでの学習を振り返る掲示資料を作成する。
2 開国によって，幕府の政治はどのように変わったのか調べる。 ・坂本龍馬と薩長同盟など	○ 相関図を作る際，班での交流を生かし，まとめさせる。
3 新しい政府は，どのような政治を目指したのか話し合う。 ・西郷隆盛 ・五箇条の御誓文など	○ 「廃藩置県」や「四民平等」などの言葉を使って，明治政府が目指した国づくりについて短い解説文を書く活動では，世の中の変化の様子と政策を関連付けて考えられるようにする。
4 政府は，なんのためにさまざまな改革をおこなったのか話し合う。 ・地租改正 ・富国強兵 ・殖産興業	○ 明治政府が目指した国づくりについて考え，適切に表現できるようにさせる。
5 明治時代になって，人々の暮らしはどのように変わったのかを調べる。 ・福沢諭吉 ・野口英世 ・文明開化など	○ 「学問のすすめ」について話し合わせ，当時の人々が新しい考えを取り入れようとしたことをつかませる。
6 自由民権運動の広がりを調べ，人々が政府にどのような政治を期待したのか話し合う。 ・板垣退助 ・大隈重信 ・国会開設など	○ 演説会の絵のセリフを考えたり，自由民権運動の広がりを調べたりする際，絵や地図，文章資料などを効果的に活用して調べられるようにする。
7 憲法が制定されて，政治はどのように変わったか話し合う。 ・伊藤博文 ・大日本帝国憲法など	○ 伊藤博文らが，天皇を中心とした国づくりを進めたことや，明治憲法が制定されたことで，立憲政治が確立したことなどを理解させる。

#### 5. 本時の展開（第 1 時） 平成 24 年 10 月 4 日（木） 5 校時 6 年 2 組教室

○ 主眼

黒船の来航について調べてきたことを発表したり，開国の有無について討論したりすることを通して，開国が国内に及ぼした影響について考え，学習問題を設定することができるようにする。

○ 準備 デジタル教科書 教材提示装置

○ 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 ◆ 評価規準（判断基準）及び評価方法
-----------	------------------------------------

- 1 黒船来航の絵図から、黒船の来航に対する人々の反応を考える。  
(黒船来航の絵図を見せる)
- T) 絵からどんなことがわかるかな。絵を見て気付いたことや疑問、人々がどんな思いだったか考えよう。

- 黒船来航の絵図をもれを感じていたことをとらえさせるとともに、ペリー来航について関心をもつことができるようにする。

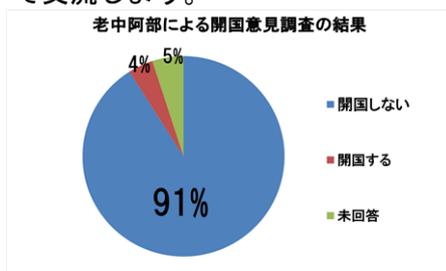


めあて ペリーの来航に対して幕府は、どのように対応したのかを考え、これからの学習問題をつくろう。

- 2 ペリーや黒船来航の目的などについて調べてきたことを発表する。
- T) ペリーやペリーの来航の目的などについて、調べてきたことを班で交流しよう。

- 班で交流させた後、教材提示装置を使って、発表させる。その際、大切なキーワードなどは板書し、家庭学習が不十分な児童の支援になるようにする。

- 3 「開国するか、開国しないか」というテーマで班で討論をする。
- T) 自分が幕府の役人なら、開国するか。それとも、開国しないか立場を決め、班で交流しよう。



- 立場を決めかねたり、考えが思いつかなかったりする児童には、鎖国の学習をした際にまとめた掲示物を見て、振り返るよう助言する。

◆ おおむね満足 (B)

【思考・判断・表現】

立場を明確にし、自分の考えを堂々と述べることができる。(発言分析)

◆ 十分満足 (A)

【思考・判断・表現】

立場を明確にし、相手にわかるように根拠や解釈を示しながら自分の考えを堂々と述べることができる。(発言分析)

※ 討論後、当時の武士の大半が開国に反対であったことを知る。

- 4 開国して結んだ2つの条約について調べ、自分の考えをまとめる。

- 治外法権や関税自主権のないことが、なぜ日本にとって不利で不平等であるかについて、資料をもとに補足する。

◆ おおむね満足 (B)

【関心・意欲・態度】

開国後の幕府や人々の暮らしに関心をもっている。(発言分析・ノート分析)

- 5 これからの学習問題をつくり、次時の学習について確かめる。

◆ 十分満足 (A)

【関心・意欲・態度】

開国後の幕府や人々の暮らしに関心をもち、具体的に調べようとしている。(発言分析・ノート分析)

学習問題 開国によって、幕府や人々の暮らしが、これからどのように変わっていくかを調べよう。

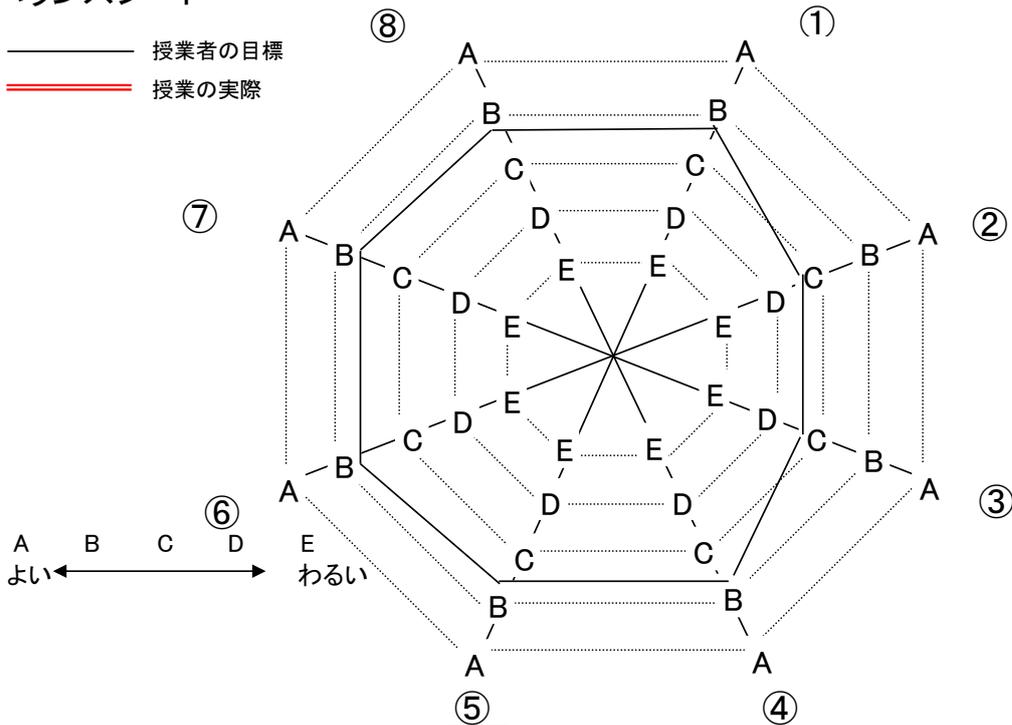
- 次時のための調べ学習の視点を確認させる。

(* 別紙5)		授業改善シート					
授業日	24年	10月	4日	5校時	教科等名	社会科	
記入者	所属	学校	職名	氏名			

参観ポイント		コメント記入欄	
<b>授業全般</b>			
①	教師は一人一人の児童を十分理解し、表情豊かに授業をしている。		
②	発達の段階に応じた望ましい学習規律が定着している。		
③	ねらいに沿って、児童の学習意欲を喚起する教材教具・学習環境が準備・整備されている。		
④	「めあて」と「ふり返し」があり、構造的でわかりやすい板書になっている。		
⑤	発問は意図が明確で、思考を促すものになっている。		
⑥	児童自らが考えたり、説明したりする主体的な活動場面がある。		
<b>主となる言語活動(関連)</b>			
⑦	児童が意欲的に討論や書く活動に取り組んでいる。		
<b>交流活動</b>			
⑧	交流の中で、児童が自分の意見を出せている。		
<b>自由設定欄</b>			
<b>感想・意見等記入欄</b>			

**バランスシート**

—— 授業者の目標  
 —— 授業の実際



# 実践交流

○ 学習規律班

○ 授業づくり班

○ 環境整備班



## 平成24年度研究同人

校 長	太田 敦生	教 頭	田島 英樹	教務主任	梅本 浩
1年1組	齋藤 朱実	1年2組	中村 真理	1年3組	小塚 千穂
1年4組	水谷ゆりみ	2年1組	近藤 佳子	2年2組	深江 昭洋
2年3組	緒方 美幸	3年1組	濱田 明美	3年2組	益田和貴子
3年3組	荒石 桂子	3年4組	遠藤 恭子	4年1組	上野智恵美
4年2組	小笠原弘美	4年3組	青野 聖子	4年4組	河野 良子
5年1組	倉富 尚	5年2組	森川 麻衣	5年3組	佐伯 利恵
5年4組	占部 龍貴	6年1組	成富 友紀	6年2組	古田 和弘
6年3組	志比田心平	6年4組	島田恵里子	少人数指導	竹内 英司
少人数指導	野見山真紀子	専科指導	西尾佐代子	養護教諭	河本 典子
学費代理職員	岡本 未来	県費事務	塚本 美佳	市費事務	伊藤 紀子
校 務 員	西村 六生	校 務 員	大友 誠	担 任 外	渡邊 寛二
担 任 外	黒田 壽子	新課程指導教員	岡島とよ子	外国語指導員	ジム・ホー

